

岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書

平成 20 年 11 月

岡 山 市

目次

第1章 調査概要	1
第1節 調査目的	1
第2節 調査内容	1
1 調査対象ごみ	1
2 調査対象地域及び調査時期	1
第3節 調査手順	3
1 調査場所	3
2 作業場所	3
3 調査手順	4
(1) 調査検体の搬入	4
(2) 調査検体の縮分方法	4
(3) 事前計量作業	5
(4) 組成調査作業	5
4 組成調査品目	6
第2章 家庭ごみ組成分析調査結果	8
第1節 地域的なごみ排出特性の把握	8
1 可燃ごみの排出特性	8
(1) 本市全域	8
(2) 西部地区	12
(3) 東部地区	17
(4) 可燃ごみの排出特性の総括	21
2 不燃ごみの排出特性	23
(1) 本市全域	23
(2) 西部地区	28
(3) 東部地区	32
(4) 不燃ごみの排出特性の総括	37

第2節	現行の分別区分に対する適正分別の状況把握	39
1	可燃ごみの状況把握	39
2	不燃ごみの状況把握	41
第3節	容器包装廃棄物の混入状況の把握	43
1	可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	43
2	不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	44
第4節	再資源化及び減量化の可能性に関する検討	46
1	可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	46
2	不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	50
第5節	ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握	54
1	可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	54
	(1) 可燃ごみの1袋当たりの投入量	54
	(2) 可燃ごみの1袋当たりの投入容量	55
2	不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	56
	(1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量	56
	(2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量	58
第3章	家庭ごみ組成分析調査結果の総括	59

調 查 概 要

第 1 章 調査概要

第 1 節 調査目的

本調査は、岡山市（以下、「本市」という。）から排出される家庭系ごみの組成分析調査を実施することにより、リサイクルに貢献する資源物がどの程度混入しているかを確認している。また、本調査は平成 17 年度より実施しており、過去の調査結果と比較することにより啓発の効果を確認している。

なお本調査結果は、以下に示す項目で整理を行っている。

地域的なごみの排出特性の把握
現行の分別区分に対する適正分別の状況把握
容器包装廃棄物の混入状況の把握
再資源化及び減量化の可能性に関する検討
ごみ袋 1 袋あたりに投入されるごみ量等の把握

第 2 節 調査内容

1 調査対象ごみ

本調査では、本市から排出される家庭ごみのうち「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」の 2 種類について調査を行った。

なお、「資源化物」、「粗大ごみ」、「事業系ごみ」については、今回の調査対象外とした。

2 調査対象地域及び調査時期

家庭ごみの調査対象地域及び調査時期は、表 1-1 に示す通りとした。

なお、可燃ごみについては、生ごみなどが混入していることから臭気上の問題があるため、収集したごみは即日調査するものとした。

表1-1 調査対象地域及び調査時期

項目	旭川西部地域	旭川東部地域
調査対象地域	一宮地区、平田地区、津島地区	中野地区、福泊地区、御成町地区
可燃ごみ	収集日時：平成20年10月7日(火) 調査日時：同上日	収集日時：平成20年10月10日(金) 調査日時：同上日
不燃ごみ	収集日時：平成20年10月8日(水) 調査日時：平成20年10月9日(木)	収集日時：平成20年10月8日(水) 調査日時：同上日

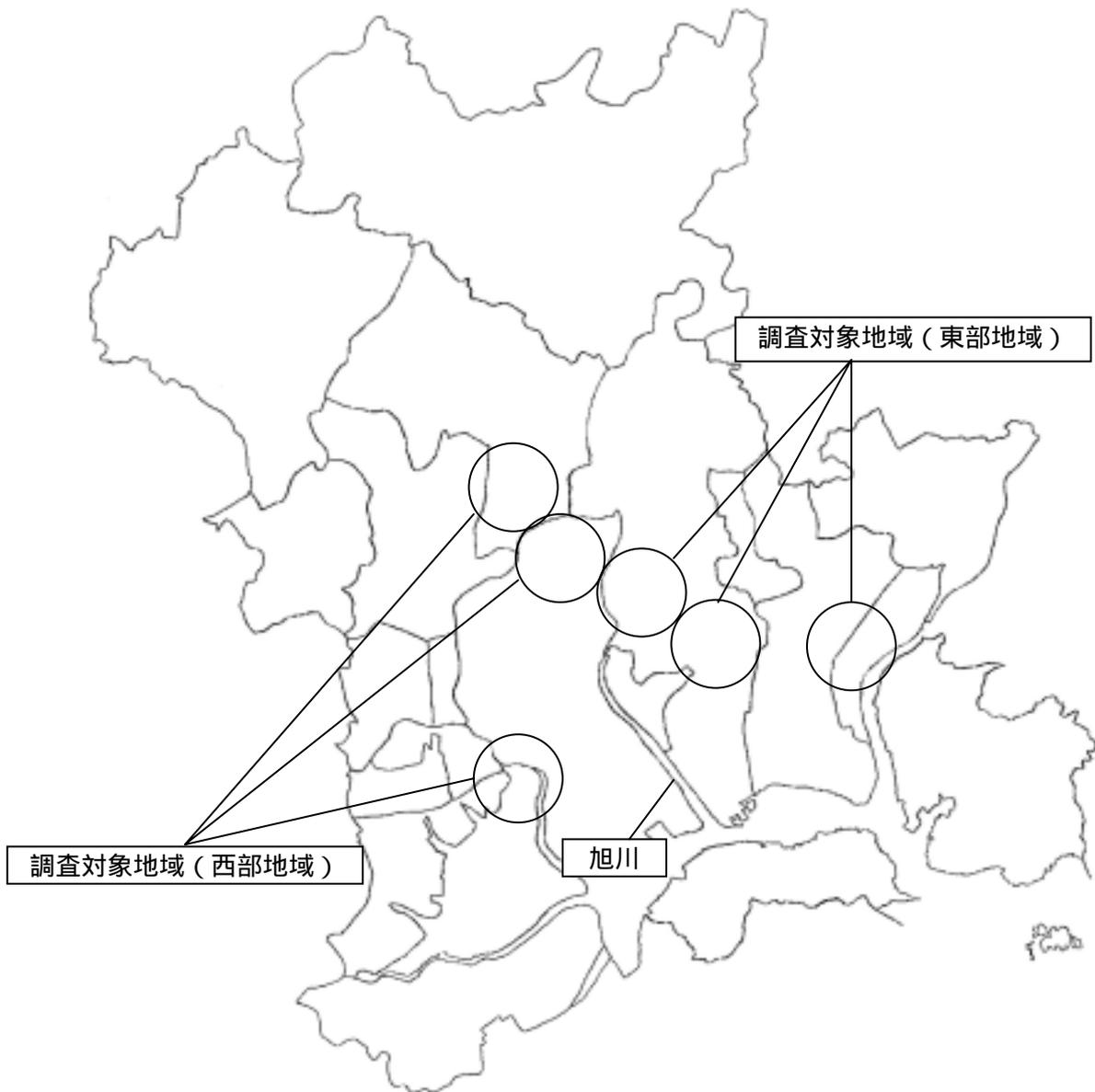


図1-1 調査対象地域

第3節 調査手順

1 調査場所

本調査は、岡山市東部リサイクルプラザの駐車場付近の未舗装部分にて実施した。調査場所については、図1-2を参照のこと。



図1-2 調査場所

2 作業場所

本調査は、東部リサイクルプラザの駐車場付近を利用して実施することとしたため、ごみの飛散や臭気対策、雨よけ、調査検体の事前保管などを目的としてテントを設営し、組成調査は室内で実施するものとした。同時に、設営したテントの周囲は全面をシートなどで覆い、風による転倒などを防ぐ目的で各コーナーをロープで固定した。

3 調査手順

(1) 調査検体の搬入

今回の調査では、紙類やプラスチック類の汚れの状況や、生ごみの排出状況なども調査することとしたため、パッカー車による通常の収集では、収集時にごみ袋の一部が破碎または攪拌されてしまい、調査目的の一部である汚れの状況などが分からなくなると考えられたことから、軽トラックにより調査検体の確保を行うこととした。なお、調査検体の確保に当たっては、事前に町内会等へ了解を得た地区のステーションに排出されたごみを、本市の職員が回収する方法を採用している。

上記のようにして得られた調査検体は、地域性の偏りを少なくするため、一旦、図 1-3 に示す場所に地域毎に搬入するものとした。

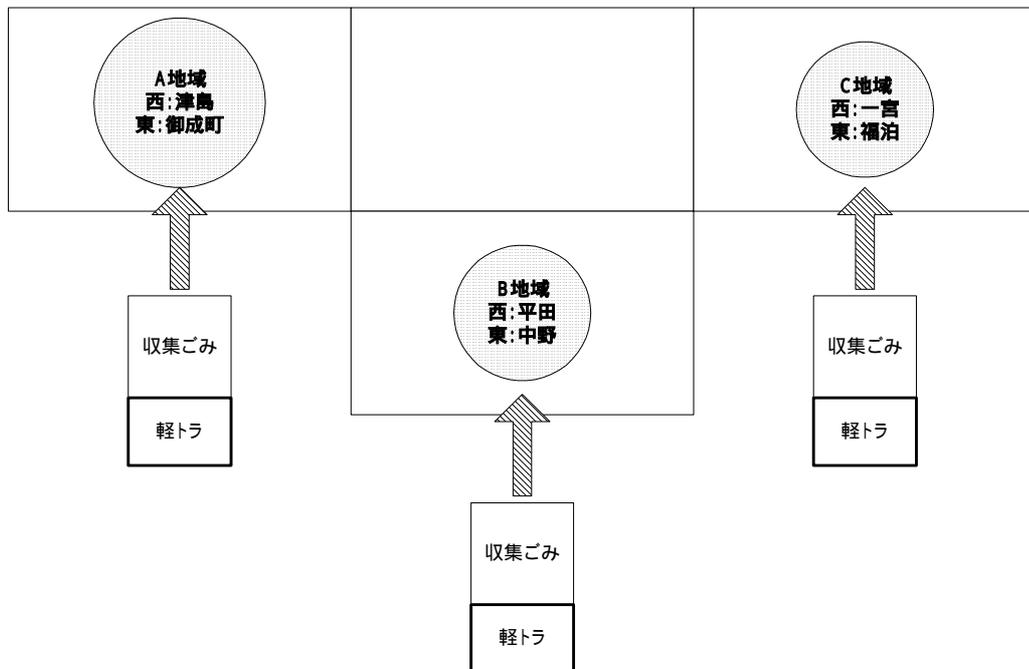


図1-3 調査検体の搬入場所

(2) 調査検体の縮分方法

一般的に調査検体の縮分¹⁾を行う場合、一旦ごみ袋からごみを出し、全てのごみを混合攪拌した後に四分法²⁾により、縮分したごみを組成調査する方法を採用するが、本調査においてこれを採用した場合、汚れの状況確認が困難となるため採用しなかった。

そこで本調査では、ごみ袋1袋あたりに何 kg のごみが入っているのかを確認する目的と併せて、図 1-4 に示すような方法で縮分を行った。

まず、テントへ搬入したごみ（150～200kg 程度）を、小袋（レジ袋等）、大袋（45ℓ袋）の2種類に分類し、それぞれ一列に並べる。その後、小袋、大袋ともに奇数の位置に並べてある袋を抽出し、これを調査サンプルとして計量を行う（第1次抽出）。

本方法を3地区分行い、各地域で約70kg 程度になるように調整した後（第2次抽出）、合計約210kg に調整したサンプルを最終調査検体とした。本方法を採用することにより、収集地域の偏りを極力少なくしている。

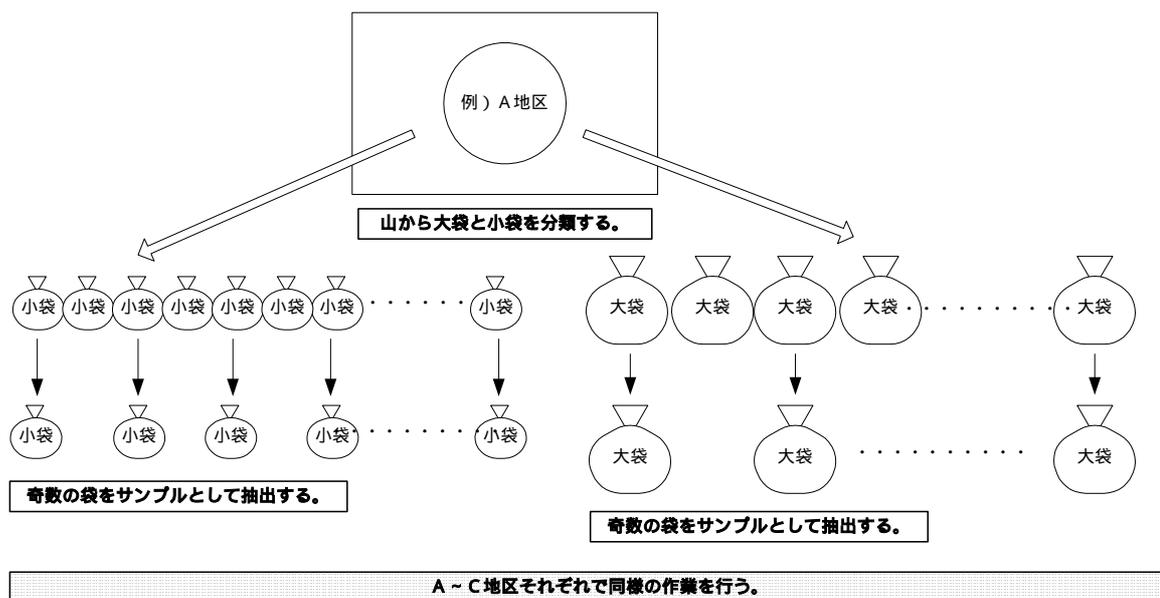


図1-4 縮分方法のイメージ

(3) 事前計量作業

前述した第1次抽出段階で抽出した全てのごみ袋を1袋ずつ計量し、見かけ比重³⁾やごみ袋1袋当たりの投入状況の確認を行った。

(4) 組成調査作業

本調査では、次項に示す組成調査の品目を分類し、それぞれ重量の計量と容積の確認を実施した。

1) 縮分：多量のサンプルを少なくすることを示す。

2) 四分法：袋から出したサンプルを平らにした後、4等分して対角を1組として、一方を残し、一方を捨てることにより、均一にごみ量を少なくする方法を示す。

3) 見掛け比重：空間部分を含んだ状態の1m³当たりの物質の重量を示す。

4 組成調査品目

今回実施した組成調査の品目を表 1-2 に整理した。

表1-2 組成調査品目（1）

大分類	中分類	小分類		具体例
紙類	紙製容器 紙パックの総称	1	牛乳パック(500ml以上)	牛乳パック
		2	牛乳パック(500ml未満)	ジュースなど
	ダンボール	3	ダンボール	ダンボール
	書類、雑誌類	4	書類、雑誌類	本、雑誌類
	新聞紙	5	新聞紙	きれいな新聞紙
		6	再利用した新聞紙	水分等を含んだ新聞紙
	広告紙	7	広告紙	きれいな広告紙
		8	再利用した広告紙	水分等を含んだ広告紙
	紙製容器	9	容器類	キャラメル、石鹸の箱など
	紙製包装	10	包装類	包装紙、手提げ紙袋
		11	包装類(ごみ出し用)	デパートの紙袋等
	OA用紙	12	OA用紙	OA用紙
	シュレッダーくず	13	シュレッダーくず	シュレッダーくず
	その他紙類	14	雑紙	ダイレクトメール、手紙、はがき等
		15	リサイクル不可能1	感熱紙、ティッシュペーパー、汚れのひどい紙類等
		16	リサイクル不可能2	紙おむつ、衛生紙等
厨芥類	食品類	17	手付かずの食品	手付かずの食品で原形があるもの
		18	調理くず、食べ残し	上記以外の食品残渣類
	食品以外	19	食品以外	ティーパック、タバコの吸殻等
布類	布類	20	リサイクル可能	衣類、繊維類
		21	リサイクル不可能	汚れのひどい衣類、繊維類
木、竹、わら類	剪定枝	22	剪定枝	剪定枝
	その他の木、竹、わら類	23	その他の木、竹、わら類	割り箸、鉛筆、わら、草、木製容器等

表1-2 組成調査品目(2)

大分類	中分類	小分類		具体例
プラスチック類、ゴム、皮革類	ペットボトル	24	リサイクル可能	飲料用、醤油用(きれいなもの)
		25	リサイクル不可能	タバコ等が混入したもの
	レジ袋	26	リサイクル可能	きれいな袋
		27	リサイクル不可能	汚れのひどい袋
	トレイ	28	リサイクル可能	白色トレイ
		29		その他トレイ類
		30	リサイクル不可能	汚れのひどい容器
	プラスチック製容器包装	31	リサイクル可能	シャンプー容器等
		32	リサイクル不可能	汚れのひどい容器等
	その他プラスチック類	33	容器包装以外のプラスチック類	プラスチック製品、電動機の付いていないおもちゃ等
	ごみ袋として利用されたプラスチック袋	34	ごみ袋	透明、半透明の袋
		35	その他袋	その他の色の袋
		36	レジ袋	ごみ袋として排出された袋
	ゴム、皮革類	37	ゴム、皮革類	合成樹脂製品、皮革類、長靴等
不燃物類	金属類	38	缶類	スチール缶
		39	缶類	アルミ缶
		40	その他金属類	金属片、王冠等
	ガラス類	41	リターナブルびん	ビール瓶、一升瓶、牛乳瓶
		42	ワンウェイびん	ジュース瓶、ドリンク瓶等
		43	その他ガラス類	化粧品瓶、その他ガラス類等
	その他	44	陶磁器類	陶磁器類
		45	複合素材	小型家電製品類
		46	医療系	薬用容器、注射針等
		47	その他	乾電池、蛍光灯、体温計等
その他	その他	48	選別残渣	分類できないもの

家庭ごみ組成分析調査結果

第2章 家庭ごみ組成分析調査結果

第1節 地域的なごみ排出特性の把握

本節では、今回実施した家庭ごみの組成分析調査のサンプルの特徴を整理している。

1 可燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表2-1に示した。

本市全域の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類(27.5%)」「厨芥類(44.5%)」「木・竹・わら類(10.8%)」「プラスチック,ゴム,皮革類(10.9%)」の4種であり、全体の約93.7%を占めていた。個別にみると「紙類」では書類・雑誌類(2.1%)、紙製容器(2.3%)、その他(16.3%)が、「厨芥類」では食品類(44.2%)が、「木・竹・わら類」では剪定枝(10.3%)が、「プラスチック,ゴム,皮革類」ではトレイ(2.0%)、プラスチック製容器包装類(4.6%)、ゴム・皮革類(1.4%)、の構成割合が高かった。

次に本市全域の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類(29.0%)」「厨芥類(13.1%)」「プラスチック,ゴム,皮革類(45.8%)」の3種類であり、全体の約87.9%を占めていた。個別にみると「紙類」では紙製容器(5.5%)、紙製包装(2.3%)、その他(13.9%)が、「厨芥類」では食品類(13.0%)が、「プラスチック,ゴム,皮革類」ではレジ袋(7.9%)、トレイ(9.6%)、プラスチック製容器包装類(19.9%)、ごみ袋(5.2%)の構成割合が高かった。

図2-1に重量比と容積比の比較を示したが、結果については、過去の調査結果とほぼ同様の状況が確認された。

次に、経年的な組成分析調査結果を表2-2、図2-2~3に示した。

本年度の調査結果は過去の調査結果と比較して、厨芥類の構成割合が高く、「プラスチック,ゴム,皮革類」や「不燃物類」の構成割合が低くなっていた。

なお、「不燃物類」の構成割合については昨年より減少傾向となっており、適正分別に向けた啓発を実施している効果があったものと考えられる。そのため、今後も適正分別に向けた啓発活動を継続することが重要である。

表2-1 大分類組成分析調査結果 1 (本市全域：可燃ごみ)

項目	全域(可燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	114.58	2.0290	27.51	29.01	0.056
牛乳パック	-	3.11	0.1000	0.74	1.43	0.031
500ml以上	1	2.18	0.0830	0.52	1.19	0.026
500ml未満	2	0.93	0.0170	0.22	0.24	0.055
ダンボール	3	4.03	0.0980	0.97	1.40	0.041
書類・雑誌類	4	8.73	0.0420	2.10	0.60	0.208
新聞紙	-	8.11	0.0840	1.95	1.20	0.097
新聞紙	5	5.08	0.0370	1.22	0.53	0.137
新聞紙(水分含む)	6	3.03	0.0470	0.73	0.67	0.064
広告紙	-	5.47	0.0650	1.31	0.93	0.084
広告紙	7	2.34	0.0230	0.56	0.33	0.102
広告紙(水分含む)	8	3.13	0.0420	0.75	0.60	0.075
紙製容器	9	9.40	0.3820	2.26	5.46	0.025
紙製包装	-	2.18	0.1600	0.52	2.29	0.014
包装類	10	2.18	0.1600	0.52	2.29	0.014
包装類(ごみ出し用)	11					
OA用紙	12					
シュレッダーくず	13	5.57	0.1230	1.34	1.76	0.045
その他	-	67.98	0.9750	16.32	13.94	0.070
リサイクル可能物	14	7.13	0.0430	1.71	0.61	0.166
リサイクル不可能物	-	60.85	0.9320	14.61	13.32	0.065
汚れのひどい紙類	15	33.19	0.7490	7.97	10.71	0.044
紙おむつ類	16	27.66	0.1830	6.64	2.62	0.151
厨芥類	-	185.50	0.9150	44.54	13.08	0.203
食品類	-	183.98	0.9080	44.18	12.98	0.203
手付かずの食品	17	14.28	0.0420	3.43	0.60	0.340
調理くず等	18	169.70	0.8660	40.75	12.38	0.196
食品類以外	19	1.52	0.0070	0.36	0.10	0.217
布類	-	14.11	0.1870	3.39	2.67	0.075
リサイクル可能物	20	12.38	0.1550	2.97	2.22	0.080
リサイクル不可能物	21	1.73	0.0320	0.42	0.46	0.054
木、竹、わら類	-	44.76	0.5470	10.75	7.82	0.082
剪定枝	22	42.91	0.5250	10.30	7.50	0.082
その他	23	1.85	0.0220	0.44	0.31	0.084
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	45.23	3.2050	10.86	45.81	0.014
ペットボトル	-	1.81	0.0890	0.43	1.27	0.020
リサイクル可能物	24	1.48	0.0690	0.36	0.99	0.021
リサイクル不可能物	25	0.33	0.0200	0.08	0.29	0.017
レジ袋	-	3.74	0.5510	0.90	7.88	0.007
リサイクル可能物	26	1.46	0.3630	0.35	5.19	0.004
リサイクル不可能物	27	2.28	0.1880	0.55	2.69	0.012
トレイ	-	8.22	0.6730	1.97	9.62	0.012
リサイクル可能物	-	1.85	0.2530	0.44	3.62	0.007
白色トレイ	28	0.28	0.0470	0.07	0.67	0.006
その他トレイ	29	1.57	0.2060	0.38	2.94	0.008
リサイクル不可能物	30	6.37	0.4200	1.53	6.00	0.015
プラスチック製容器包装類	-	19.30	1.3930	4.63	19.91	0.014
リサイクル可能物	31	3.40	0.4160	0.82	5.95	0.008
リサイクル不可能物	32	15.90	0.9770	3.82	13.96	0.016
その他プラスチック類	33	3.83	0.0560	0.92	0.80	0.068
ごみ袋	-	2.70	0.3660	0.65	5.23	0.007
透明・半透明袋	34	1.77	0.2610	0.43	3.73	0.007
その他の色袋	35					
レジ袋類	36	0.93	0.1050	0.22	1.50	0.009
ゴム・皮革類	37	5.63	0.0770	1.35	1.10	0.073

表2-1 大分類組成分析調査結果 2 (本市全域：可燃ごみ)

項目	全域(可燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
不燃物類	-	2.00	0.0243	0.48	0.35	0.082
金属類	-	1.10	0.0182	0.26	0.26	0.061
スチール缶	38	0.58	0.0021	0.14	0.03	0.276
アルミ缶	39	0.14	0.0031	0.03	0.04	0.046
その他金属類	40	0.38	0.0130	0.09	0.19	0.029
ガラス類	-	0.50	0.0041	0.12	0.06	0.121
リターナルびん	41					
ワンウェイびん	42	0.50	0.0041	0.12	0.06	0.121
その他ガラス類	43					
その他	-	0.40	0.0020	0.10	0.03	0.200
陶磁器類	44					
複合素材	45	0.40	0.0020	0.10	0.03	0.200
医療系	46					
その他(乾電池など)	47					
その他(選別不能残渣類)	48	10.27	0.0890	2.47	1.26	0.115
総合計		416.45	6.9963	100.00	100.00	

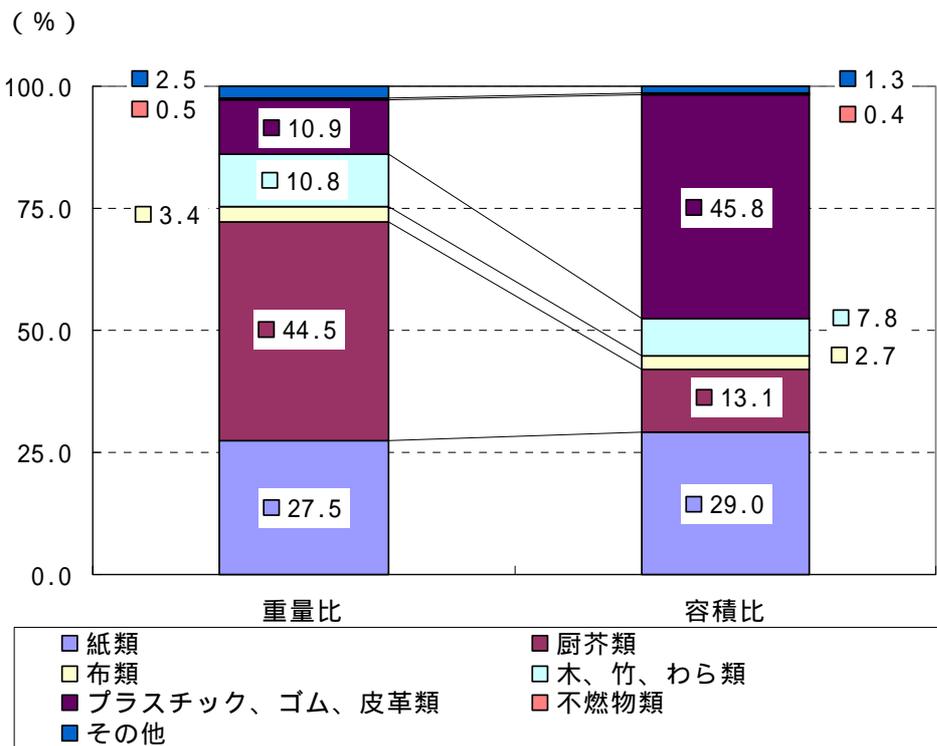


図2-1 重量比と容積比の大分類組成調査結果比較 (本市全域：可燃ごみ)

表2-2 大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

分類	重量比				容積比			
	H20	H19	H18	H17	H20	H19	H18	H17
紙類	27.51%	33.30%	27.70%	29.20%	29.01%	30.70%	35.60%	31.40%
厨芥類	44.54%	33.30%	38.30%	35.90%	13.08%	8.80%	6.10%	4.80%
布類	3.39%	4.80%	4.50%	4.30%	2.67%	2.70%	4.20%	2.80%
木、竹、わら類	10.75%	9.70%	6.10%	10.60%	7.82%	7.20%	3.50%	6.40%
プラスチック、 ゴム、皮革類	10.86%	15.90%	17.60%	13.90%	45.81%	50.00%	48.80%	52.00%
不燃物類	0.48%	0.60%	2.50%	2.70%	0.35%	0.30%	1.10%	0.50%
その他	2.47%	2.30%	3.30%	3.40%	1.26%	0.30%	0.70%	2.10%

H17年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成17年11月）
 H18年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成18年11月）
 H19年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成19年11月）

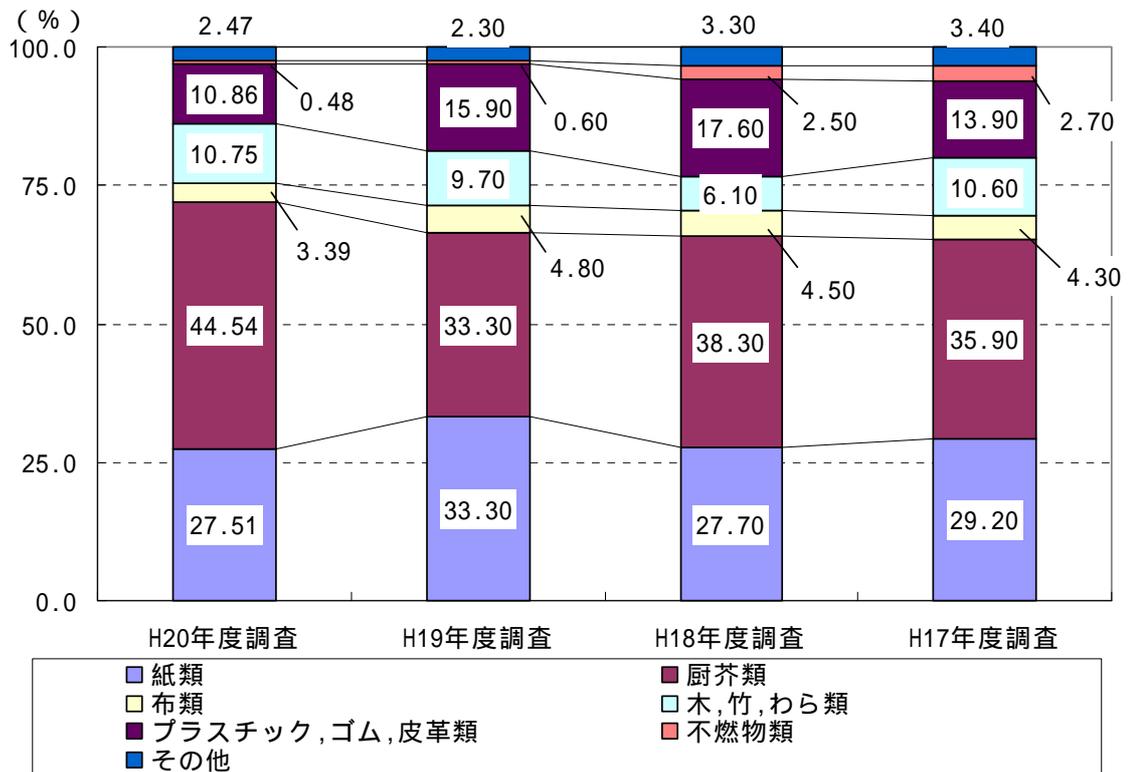


図2-2 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

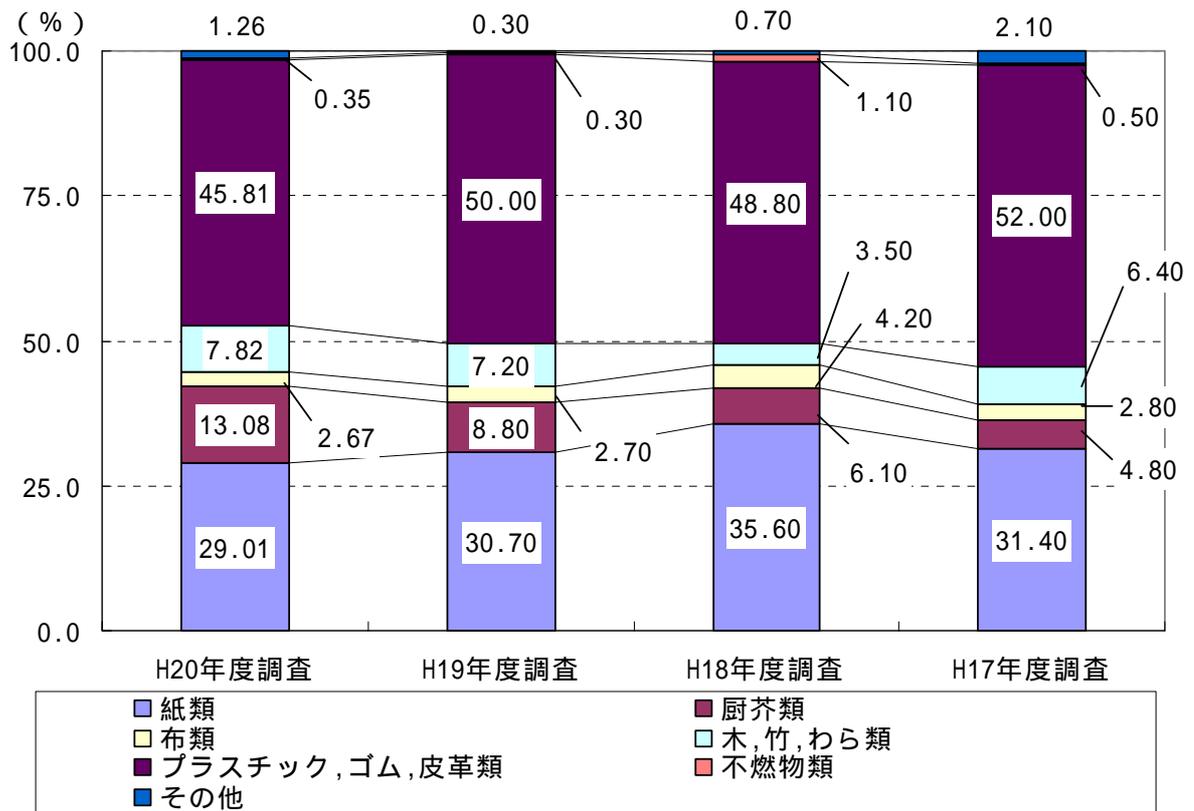


図2-3 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

（ 2 ）西部地区

今回実施した西部地区の可燃ごみの組成分析調査の大分類の結果を表2-3に示した。

西部地区の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類（29.8%）」、「厨芥類（44.2%）」及び「プラスチック、ゴム、皮革類」（12.0%）の3種であり、全体の約86.0%を占めていた。個別にみると「紙類」では書類・雑誌類（3.1%）、広告紙（2.1%）、紙製容器（2.3%）、その他（17.5%）が、「厨芥類」では食品類（43.8%）が、「プラスチック、ゴム、皮革類」ではトレイ（2.3%）、プラスチック製容器包装類（4.9%）、ゴム・皮革類（2.1%）の構成割合が高かった。

次に、西部地区の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（29.7%）、「厨芥類」（11.6%）、「プラスチック、ゴム、皮革類」（51.1%）の3種類であり、全体の約92.4%を占めていた。個別にみると「紙類」では紙製容器（5.2%）、紙製包装（2.6%）、その他（14.2%）が、「厨芥類」では食品類（11.6%）が、「プラスチック、ゴム、皮革類」ではレジ袋（10.5%）、プラスチック製容器包装類（23.5%）の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図2-4参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表2-4、図2-5～6に示した。

本年度の調査結果については、過去の調査結果と比較すると厨芥類や木・竹・わら類などの構成比が増加していたが、傾向としては平成18年度の結果に類似していた。

表2-3 大分類組成分析調査結果1（西部地区：可燃ごみ）

項目	西部地区（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	63.28	1.0730	29.83	29.71	0.059
牛乳パック	-	1.98	0.0470	0.93	1.30	0.042
500ml以上	1	1.24	0.0380	0.58	1.05	0.033
500ml未満	2	0.74	0.0090	0.35	0.25	0.082
ダンボール	3	1.44	0.0700	0.68	1.94	0.021
書類・雑誌類	4	6.54	0.0330	3.08	0.91	0.198
新聞紙	-	3.43	0.0500	1.62	1.38	0.069
新聞紙	5	0.99	0.0110	0.47	0.30	0.090
新聞紙（水分含む）	6	2.44	0.0390	1.15	1.08	0.063
広告紙	-	4.48	0.0470	2.11	1.30	0.095
広告紙	7	2.34	0.0230	1.10	0.64	0.102
広告紙（水分含む）	8	2.14	0.0240	1.01	0.66	0.089
紙製容器	9	4.92	0.1870	2.32	5.18	0.026
紙製包装	-	1.44	0.0950	0.68	2.63	0.015
包装類	10	1.44	0.0950	0.68	2.63	0.015
包装類（ごみ出し用）	11					
OA用紙	12					
シュレッダーくず	13	2.04	0.0300	0.96	0.83	0.068
その他	-	37.01	0.5140	17.45	14.24	0.072
リサイクル可能物	14	4.04	0.0270	1.90	0.75	0.150
リサイクル不可能物	-	32.97	0.4870	15.54	13.49	0.068
汚れのひどい紙類	15	13.79	0.3570	6.50	9.89	0.039
紙おむつ類	16	19.18	0.1300	9.04	3.60	0.148
厨芥類	-	93.71	0.4190	44.17	11.61	0.224
食品類	-	92.85	0.4170	43.77	11.55	0.223
手付かずの食品	17	5.24	0.0140	2.47	0.39	0.374
調理くず等	18	87.61	0.4030	41.30	11.16	0.217
食品類以外	19	0.86	0.0020	0.41	0.06	0.430
布類	-	8.08	0.1080	3.81	2.99	0.075
リサイクル可能物	20	7.34	0.0850	3.46	2.35	0.086
リサイクル不可能物	21	0.74	0.0230	0.35	0.64	0.032
木、竹、わら類	-	19.72	0.1530	9.30	4.24	0.129
剪定枝	22	19.16	0.1470	9.03	4.07	0.130
その他	23	0.56	0.0060	0.26	0.17	0.093

表2-3 大分類組成分析調査結果 2 (西部地区：可燃ごみ)

項目	西部地区(可燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	25.53	1.8440	12.03	51.08	0.014
ペットボトル	-	0.93	0.0680	0.44	1.88	0.014
リサイクル可能物	24	0.69	0.0500	0.33	1.38	0.014
リサイクル不可能物	25	0.24	0.0180	0.11	0.50	0.013
レジ袋	-	1.96	0.3780	0.92	10.47	0.005
リサイクル可能物	26	0.92	0.2750	0.43	7.62	0.003
リサイクル不可能物	27	1.04	0.1030	0.49	2.85	0.010
トレイ	-	4.79	0.2740	2.26	7.59	0.017
リサイクル可能物	-	0.83	0.1300	0.39	3.60	0.006
白色トレイ	28	0.19	0.0250	0.09	0.69	0.008
その他トレイ	29	0.64	0.1050	0.30	2.91	0.006
リサイクル不可能物	30	3.96	0.1440	1.87	3.99	0.028
プラスチック製容器包装類	-	10.45	0.8500	4.93	23.54	0.012
リサイクル可能物	31	1.82	0.2660	0.86	7.37	0.007
リサイクル不可能物	32	8.63	0.5840	4.07	16.18	0.015
その他プラスチック類	33	1.44	0.0160	0.68	0.44	0.090
ごみ袋	-	1.62	0.1900	0.76	5.26	0.009
透明・半透明袋	34	1.03	0.1680	0.49	4.65	0.006
その他の色袋	35					
レジ袋	36	0.59	0.0220	0.28	0.61	0.027
ゴム・皮革類	37	4.34	0.0680	2.05	1.88	0.064
不燃物類	-	0.88	0.0083	0.41	0.23	0.106
金属類	-	0.52	0.0072	0.25	0.20	0.073
スチール缶	38	0.20	0.0001	0.09	0.003	2.000
アルミ缶	39	0.10	0.0021	0.05	0.06	0.049
その他金属類	40	0.22	0.0050	0.10	0.14	0.044
ガラス類	-	0.14	0.0001	0.07	0.003	1.167
リターナルびん	41					
ワンウェイびん	42	0.14	0.0001	0.07	0.003	1.167
その他ガラス類	43					
その他	-	0.22	0.0010	0.10	0.03	0.220
陶磁器類	44					
複合素材	45	0.22	0.0010	0.10	0.03	0.220
医療系	46					
その他(乾電池など)	47					
その他(選別不能残渣類)	48	0.94	0.0050	0.45	0.14	0.188
総合計		212.14	3.6103	100.00	100.00	

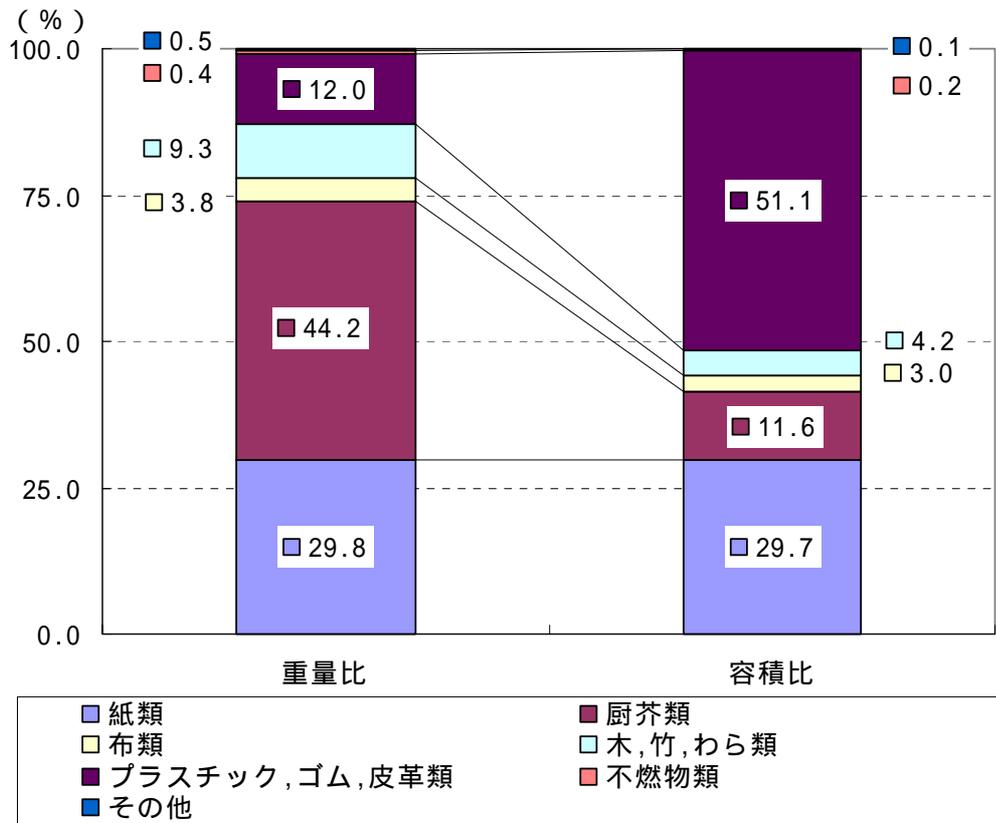


図2-4 大分類組成調査結果 (西部地区：可燃ごみ)

表2-4 大分類組成分析調査結果の比較 (西部地区：可燃ごみ)

項目 分類	重量比				容積比			
	H20	H19	H18	H17	H20	H19	H18	H17
紙類	29.8%	35.0%	29.7%	34.9%	29.7%	34.2%	35.6%	31.4%
厨芥類	44.2%	34.6%	43.6%	37.1%	11.6%	7.5%	6.1%	4.8%
布類	3.8%	5.0%	3.8%	3.7%	3.0%	3.5%	4.2%	2.8%
木,竹,わら類	9.3%	2.6%	3.7%	5.5%	4.2%	3.3%	3.5%	6.4%
プラスチック, ゴム,皮革類	12.0%	19.1%	5.5%	13.8%	51.1%	51.1%	48.8%	52.0%
不燃物類	0.4%	0.6%	1.6%	0.0%	0.2%	1.7%	1.1%	0.5%
その他	0.5%	0.2%	2.2%	5.0%	0.1%	0.5%	0.7%	2.1%

H17年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成17年11月）

H18年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成18年11月）

H19年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成19年11月）

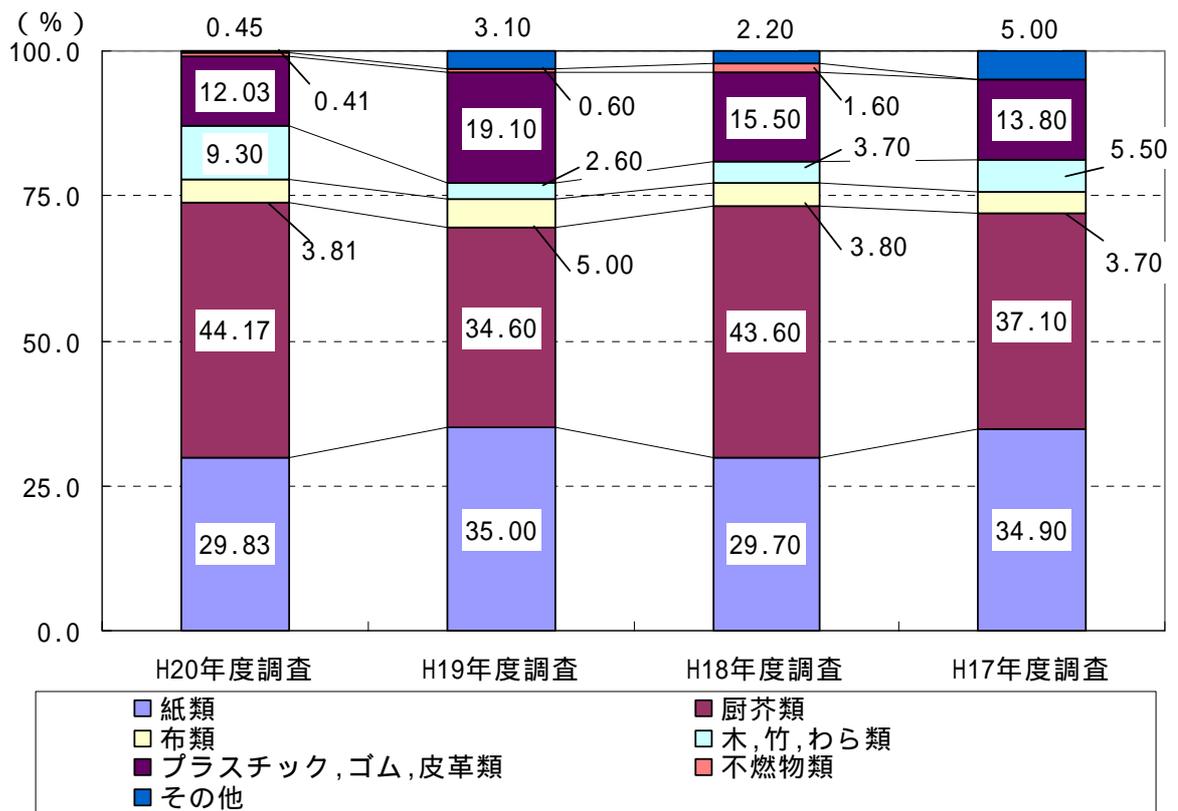


図2-5 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地区：可燃ごみ）

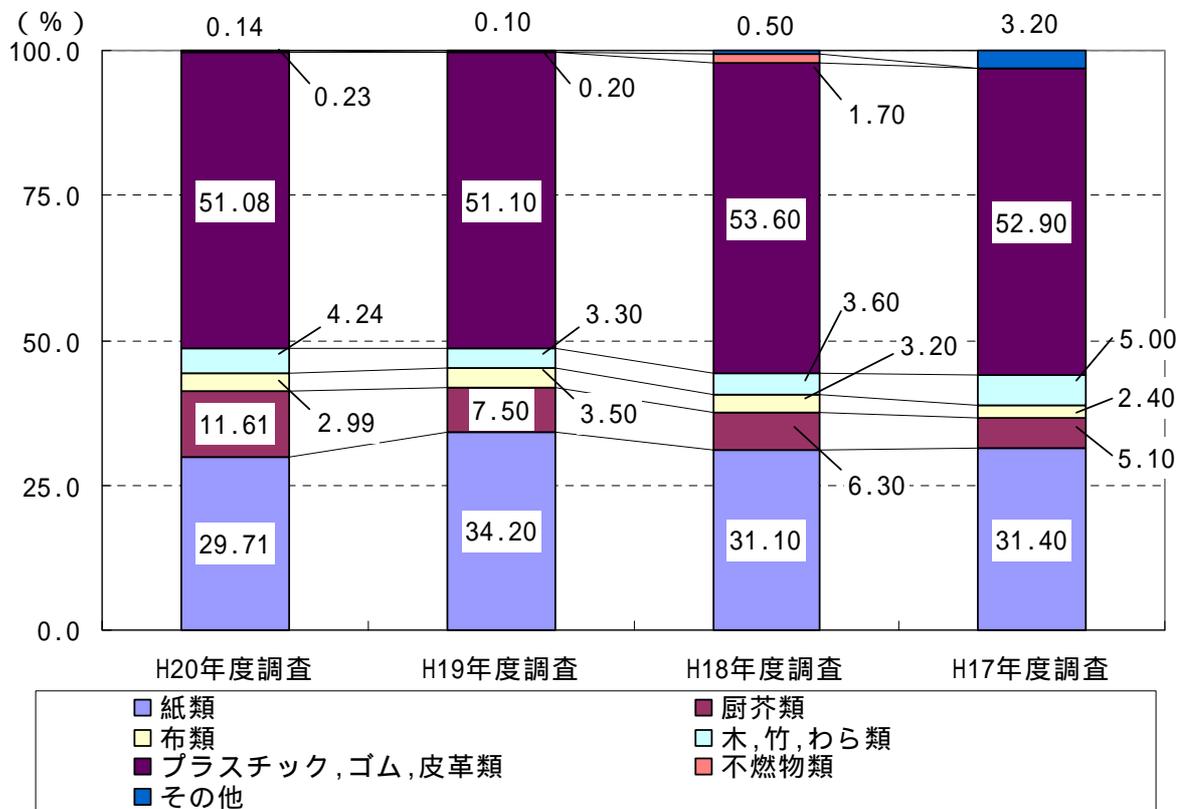


図2-6 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地区：可燃ごみ）

(3) 東部地区

今回実施した東部地区の可燃ごみの組成分析調査の大分類の結果を表 2-5 に示した。

東部地区の重量比で 10%以上の組成項目は「紙類」(25.1%)、「厨芥類」(44.9%)、「木・竹・わら類」(12.3%)の 3 種であり、全体の約 81.3%を占めていた。個別にみると、「紙類」では新聞紙(2.3%)、紙製容器(2.2%)、その他(15.2%)が、「厨芥類」では食品類(44.6%)が、「木・竹・わら類」では剪定枝(11.6%)の構成割合が高かった。

次に、東部地区の容積比で 10%以上の組成項目は「紙類」(28.3%)、「厨芥類」(14.7%)、「木・竹・わら類」(11.6%)、「プラスチック,ゴム,皮革類」(40.2%)の 4 種であり、全体の約 94.8%を占めていた。個別にみると「紙類」では紙製容器(5.8%)、シュレッダーくず(2.8%)、その他(13.6%)が、「プラスチック,ゴム,皮革類」ではレジ袋(5.1%)、トレイ(11.8%)、プラスチック製容器包装類(16.0%)、ごみ袋(5.2%)の構成割合が高かった。

図 2-7 に重量比と容積比の比較を示したが、本市全域と同様の傾向であった。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-6 及び図 2-8~9 に示した。

本年度は、過去の調査結果と比較して、厨芥類の構成比が高く、プラスチック,ゴム,皮革類の構成比が低い状況であった。また、不燃物の構成比が平成 18 年度より低くなっており、適正分別が進んでいるものと考えられた。

表2-5 大分類組成調査結果1 (東部地区：可燃ごみ)

項目	東部地区 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	51.30	0.9560	25.10	28.25	0.054
牛乳パック	-	1.13	0.0530	0.55	1.57	0.021
500m/以上	1	0.94	0.0450	0.46	1.33	0.021
500m/未満	2	0.19	0.0080	0.09	0.24	0.024
ダンボール	3	2.59	0.0280	1.27	0.83	0.093
書類・雑誌類	4	2.19	0.0090	1.07	0.27	0.243
新聞紙	-	4.68	0.0340	2.29	1.01	0.138
新聞紙	5	4.09	0.0260	2.00	0.77	0.157
新聞紙(水分含む)	6	0.59	0.0080	0.29	0.24	0.074
広告紙	-	0.99	0.0180	0.48	0.53	0.055
広告紙	7					
広告紙(水分含む)	8	0.99	0.0180	0.48	0.53	0.055
紙製容器	9	4.48	0.1950	2.19	5.76	0.023
紙製包装	-	0.74	0.0650	0.36	1.92	0.011
包装類	10	0.74	0.0650	0.36	1.92	0.011
包装類(ごみ出し用)	11					
OA用紙	12					
シュレッダーくず	13	3.53	0.0930	1.73	2.75	0.038
その他	-	30.97	0.4610	15.16	13.61	0.067
リサイクル可能物	14	3.09	0.0160	1.51	0.47	0.193
リサイクル不可能物	-	27.88	0.4450	13.65	13.14	0.063
汚れのひどい紙類	15	19.40	0.3920	9.50	11.58	0.049
紙おむつ類	16	8.48	0.0530	4.15	1.57	0.160
厨芥類	-	91.79	0.4960	44.93	14.65	0.185
食品類	-	91.13	0.4910	44.60	14.50	0.186
手付かずの食品	17	9.04	0.0280	4.42	0.83	0.323
調理くず等	18	82.09	0.4630	40.18	13.67	0.177
食品類以外	19	0.66	0.0050	0.32	0.15	0.132
布類	-	6.03	0.0790	2.95	2.33	0.076
リサイクル可能物	20	5.04	0.0700	2.47	2.07	0.072
リサイクル不可能物	21	0.99	0.0090	0.48	0.27	0.110
木、竹、わら類	-	25.04	0.3940	12.26	11.64	0.064
剪定枝	22	23.75	0.3780	11.62	11.16	0.063
その他	23	1.29	0.0160	0.63	0.47	0.081
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	19.70	1.3610	9.64	40.19	0.014
ペットボトル	-	0.88	0.0210	0.43	0.62	0.042
リサイクル可能物	24	0.79	0.0190	0.39	0.56	0.042
リサイクル不可能物	25	0.09	0.0020	0.04	0.06	0.045
レジ袋	-	1.78	0.1730	0.87	5.11	0.010
リサイクル可能物	26	0.54	0.0880	0.26	2.60	0.006
リサイクル不可能物	27	1.24	0.0850	0.61	2.51	0.015
トレイ	-	3.43	0.3990	1.68	11.78	0.009
リサイクル可能物	-	1.02	0.1230	0.50	3.63	0.008
白色トレイ	28	0.09	0.0220	0.04	0.65	0.004
その他トレイ	29	0.93	0.1010	0.46	2.98	0.009
リサイクル不可能物	30	2.41	0.2760	1.18	8.15	0.009
プラスチック製容器包装類	-	8.85	0.5430	4.33	16.04	0.016
リサイクル可能物	31	1.58	0.1500	0.77	4.43	0.011
リサイクル不可能物	32	7.27	0.3930	3.56	11.61	0.018
その他プラスチック類	33	2.39	0.0400	1.17	1.18	0.060
ごみ袋	-	1.08	0.1760	0.53	5.20	0.006
透明・半透明袋	34	0.74	0.0930	0.36	2.75	0.008
その他の色袋	35					
レジ袋	36	0.34	0.0830	0.17	2.45	0.004
ゴム・皮革類	37	1.29	0.0090	0.63	0.27	0.143

表2-5 大分類組成調査結果2（東部地区：可燃ごみ）

項目	東部地区（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
不燃物類	-	1.12	0.0160	0.55	0.47	0.070
金属類	-	0.58	0.0110	0.28	0.32	0.053
スチール缶	38	0.38	0.0020	0.19	0.06	0.190
アルミ缶	39	0.04	0.0010	0.02	0.03	0.040
その他金属類	40	0.16	0.0080	0.08	0.24	0.020
ガラス類	-	0.36	0.0040	0.18	0.12	0.090
リターナルびん	41					
ワンウェイびん	42	0.36	0.0040	0.18	0.12	0.090
その他ガラス類	43					
その他	-	0.18	0.0010	0.09	0.03	0.180
陶磁器類	44					
複合素材	45	0.18	0.0010	0.09	0.03	0.180
医療系	46					
その他（乾電池など）	47					
その他（選別不能残渣類）	48	9.33	0.0840	4.57	2.47	0.111
総合計		204.31	3.3860	100.00	100.00	

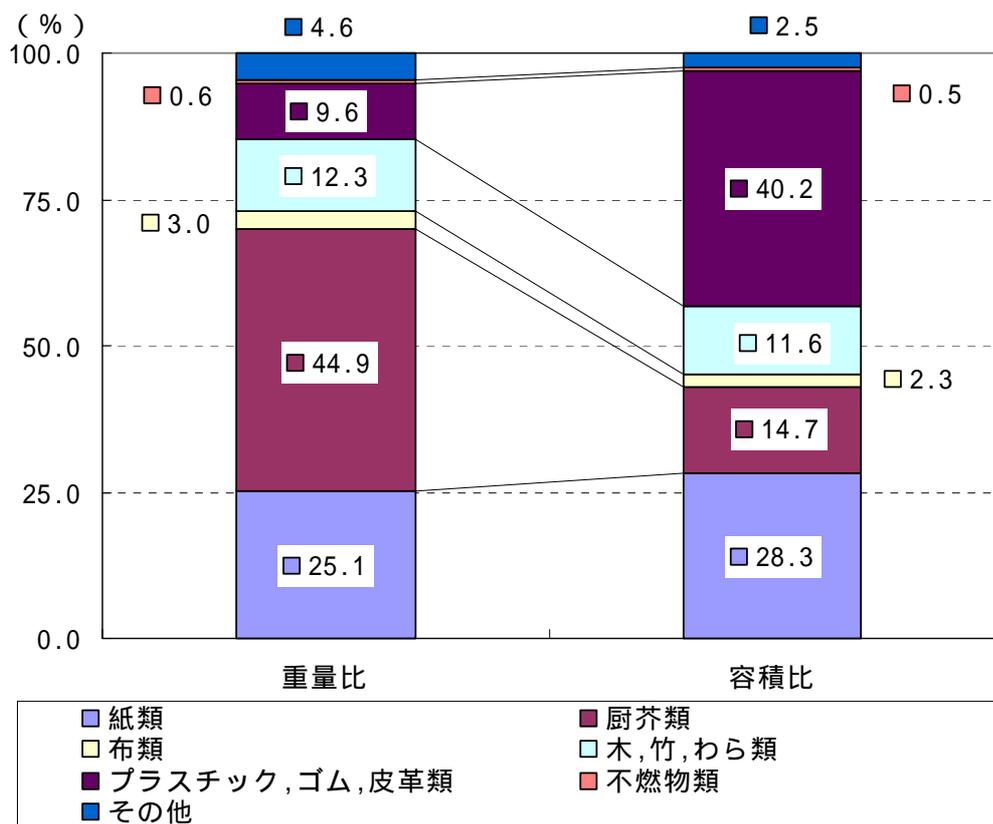


図2-7 大分類組成調査結果（東部地区：可燃ごみ）

表2-6 大分類組成調査結果の比較（東部地区：可燃ごみ）

項目 分類	重量比				容積比			
	H20	H19	H18	H17	H20	H19	H18	H17
紙類	25.1%	31.8%	25.8%	23.2%	28.3%	26.7%	40.4%	31.4%
厨芥類	44.9%	32.1%	33.2%	34.5%	14.7%	10.3%	6.0%	4.6%
布類	3.0%	4.6%	5.2%	5.1%	2.3%	1.8%	5.2%	3.2%
木、竹、わら類	12.3%	16.5%	8.3%	16.0%	11.6%	11.7%	3.4%	7.6%
プラスチック、 ゴム、皮革類	9.6%	12.8%	19.7%	14.0%	40.2%	48.8%	43.7%	51.1%
不燃物類	0.6%	0.5%	3.4%	5.6%	0.5%	0.3%	0.4%	1.0%
その他	4.6%	1.6%	4.4%	1.7%	2.5%	0.4%	1.0%	1.1%

H17年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成17年11月）
 H18年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成18年11月）
 H19年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成19年11月）

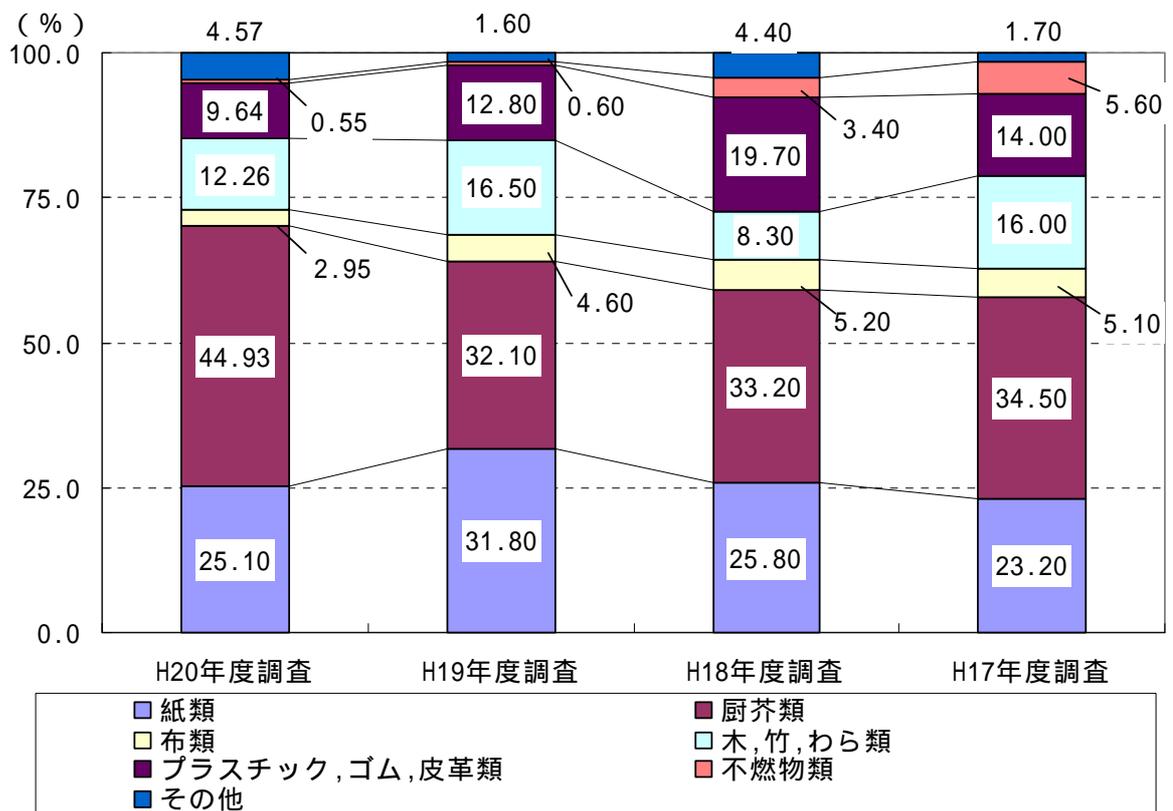


図2-8 重量比の大分類組成調査結果の比較（東部地区：可燃ごみ）

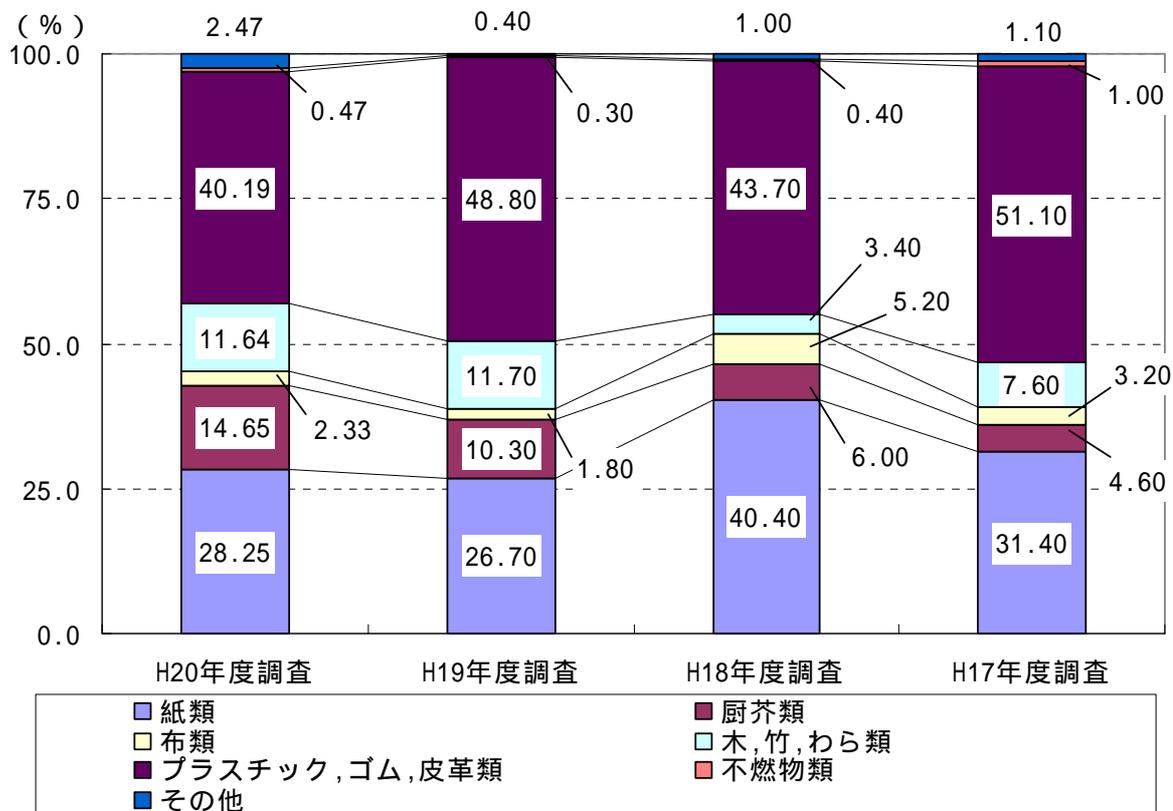


図2-9 容積比の大分類組成調査結果の比較（東部地区：可燃ごみ）

（４）可燃ごみの排出特性の総括

平成 17～20 年度の本市全域、西部地区、東部地区の構成比を比較した結果を図 2-10～11 に示した。

全体的な傾向として、今回の調査結果は、平成 18 年度の調査地域とほぼ同じ地域の可燃ごみを調査しているため、概ね構成比が類似していた。個別の構成比としては、厨芥類の構成比が高くなっている点や、プラスチック、ゴム、皮革類の構成比が少なくなっている点が特徴であった。また、不燃物類の構成比については、平成 19 年度より減少傾向となっていることから啓発効果が表れているものと考えられる。なお、木・竹・わら類については、これまでの調査結果と同様に一戸建てが多い東部地区の構成比が高くなっていた。

図 2-12 に可燃ごみの特性比較を行ったが、構成比の分布状況が過去に実施した調査結果と類似しているが、年々厨芥類の構成比が増加していることが確認できた。

本傾向については、平成 20 年 12 月よりざつかり回収や古紙などの収集回数を月 2 回に変更する施策を実施することから、より一層顕著になるのではないかと考えられる。また、平成 21 年 2 月よりごみ袋の有料化を実施することから、排出ごみに大きな影響を与えるものと考えられるため、来年度の調査内容については十分な調査が必要である。

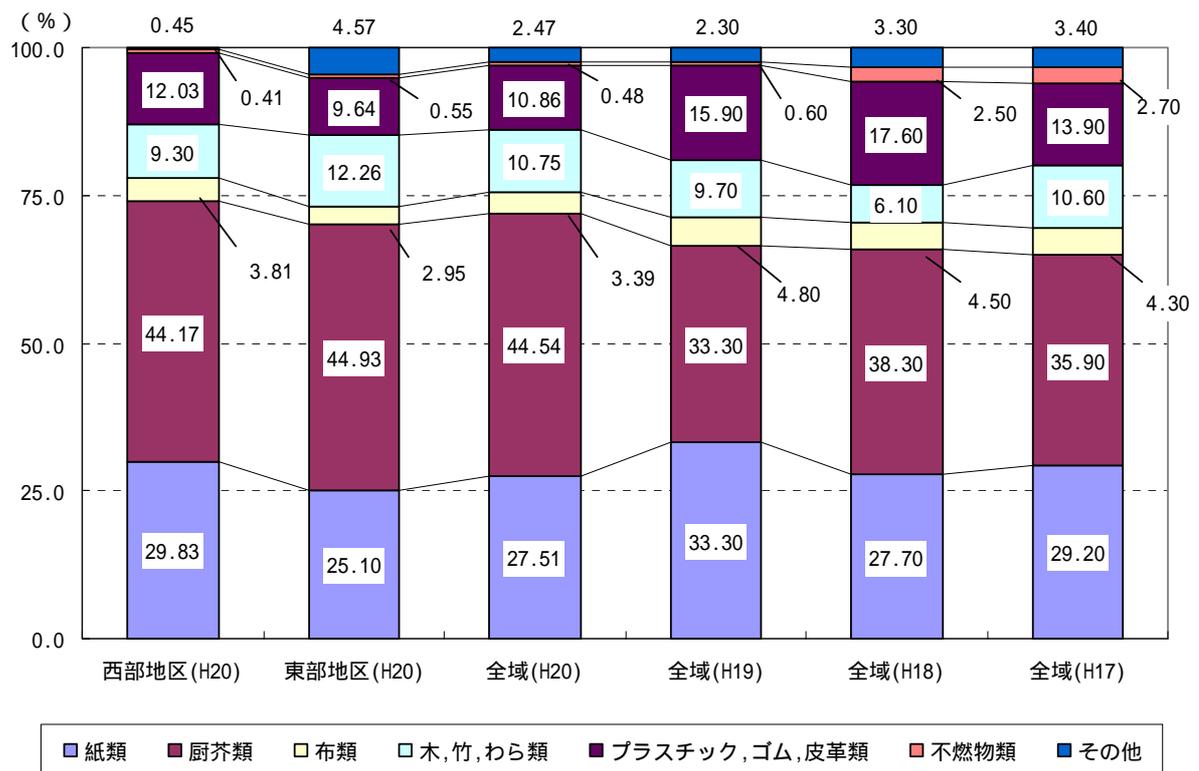


図2-10 大分類組成調査の比較 (可燃ごみ：重量比)

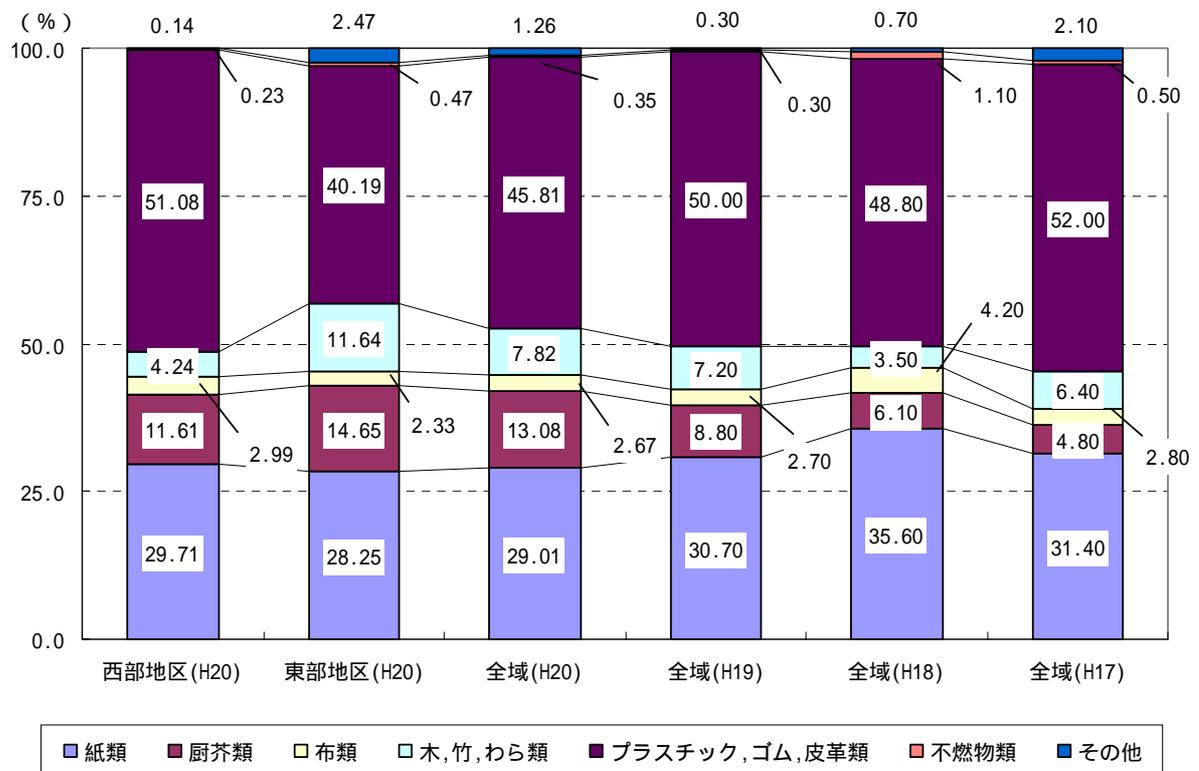


図2-11 大分類組成調査の比較 (可燃ごみ：容積比)

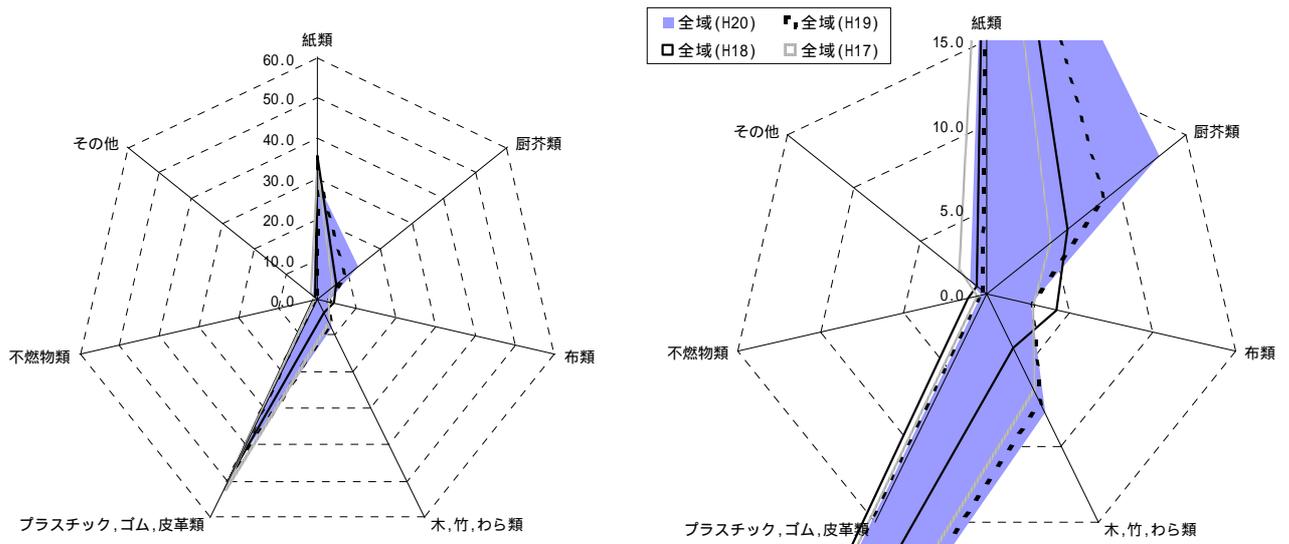


図2-12 可燃ごみの特性比較（重量比：左図-全体、右図-拡大）

2 不燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-7 に示した。

本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック、ゴム、皮革類」（12.5%）、「不燃物類」（83.9%）の 2 種であり、全体の約 96.4%を占めていた。個別にみると「プラスチック、ゴム、皮革類」ではその他プラスチック類（5.7%）、ゴム・皮革類（3.8%）が、「不燃物類」ではワンウェイびん（18.4%）、陶磁器類（17.3%）、複合素材（21.2%）の構成割合が高かった。

次に本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は重量比と同様に「プラスチック、ゴム、皮革類」（32.7%）、「不燃物類」（63.8%）の 2 種類であり、全体の約 96.5%を占めていた。個別にみると「プラスチック、ゴム、皮革類」ではレジ袋（3.8%）、その他プラスチック類（10.6%）、ごみ袋（11.6%）が、「不燃物類」ではスチール缶（12.3%）、ワンウェイびん（9.1%）、複合素材（18.4%）の構成割合が高かった。

図 2-13 に重量比と容積比の比較を示したが、これまでの調査結果と同様に「プラスチック、ゴム、皮革類」では重量比が低く容積比が高く、「不燃物類」では重量比が高く容積比が低い状況が確認された。

次に、経年的な組成分析調査の結果を表 2-8、図 2-14～15 に示した。

本年度の結果については、過去の調査結果と比較すると紙類の構成比が低くなっているため、適正分別が進んでいるものと考えられるが、スポット的な減少である可能性もあることから、来年度の調査結果を確認する必要がある。

表2-7 大分類組成調査結果1 (本市全域：不燃ごみ)

項目	全域(不燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	2.35	0.1080	0.51	2.74	0.022
牛乳パック	-	0.11	0.0010	0.02	0.03	0.110
500m/以上	1	0.11	0.0010	0.02	0.03	0.110
500m/未満	2					
ダンボール	3					
書類・雑誌類	4					
新聞紙	-	0.44	0.0550	0.10	1.39	0.008
新聞紙	5	0.44	0.0550	0.10	1.39	0.008
新聞紙(水分含む)	6					
広告紙	-					
広告紙	7					
広告紙(水分含む)	8					
紙製容器	9	0.50	0.0050	0.11	0.13	0.100
紙製包装	-	1.28	0.0460	0.28	1.16	0.028
包装類	10	1.28	0.0460	0.28	1.16	0.028
包装類(ごみ出し用)	11					
OA用紙	12	0.02	0.0010	0.004	0.03	0.020
シュレッダーくず	13					
その他	-					
リサイクル可能物	14					
リサイクル不可能物	-					
汚れのひどい紙類	15					
紙おむつ類	16					
厨芥類	-	0.66	0.0003	0.15	0.01	2.200
食品類	-	0.66	0.0003	0.15	0.01	2.200
手付かずの食品	17	0.66	0.0003	0.15	0.01	2.200
調理くず等	18					
食品類以外	19					
布類	-					
リサイクル可能物	20					
リサイクル不可能物	21					
木、竹、わら類	-	2.62	0.0070	0.58	0.18	0.374
剪定枝	22					
その他	23	2.62	0.0070	0.58	0.18	0.374
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	56.38	1.2948	12.48	32.74	0.044
ペットボトル	-	3.32	0.1124	0.73	2.84	0.030
リサイクル可能物	24	1.78	0.1100	0.39	2.78	0.016
リサイクル不可能物	25	1.54	0.0024	0.34	0.06	0.642
レジ袋	-	0.38	0.1510	0.08	3.82	0.003
リサイクル可能物	26	0.24	0.0880	0.05	2.23	0.003
リサイクル不可能物	27	0.14	0.0630	0.03	1.59	0.002
トレイ	-					
リサイクル可能物	-					
白色トレイ	28					
その他トレイ	29					
リサイクル不可能物	30					
プラスチック製容器包装類	-	5.04	0.0790	1.11	2.00	0.064
リサイクル可能物	31	0.92	0.0210	0.20	0.53	0.044
リサイクル不可能物	32	4.12	0.0580	0.91	1.47	0.071
その他プラスチック類	33	25.80	0.4190	5.72	10.59	0.062
ごみ袋	-	4.60	0.4580	1.02	11.58	0.010
透明・半透明袋	34	1.68	0.1830	0.37	4.63	0.009
その他の色袋	35					
レジ袋	36	2.92	0.2750	0.65	6.95	0.011
ゴム・皮革類	37	17.24	0.0754	3.82	1.91	0.229

表2-7 大分類組成調査結果2（本市全域：不燃ごみ）

項目	全域（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
不燃物類	-	378.34	2.5238	83.88	63.81	0.150
金属類	-	74.78	1.0900	16.58	27.56	0.069
スチール缶	38	36.86	0.4860	8.17	12.29	0.076
アルミ缶	39	7.16	0.2930	1.59	7.41	0.024
その他金属類	40	30.76	0.3110	6.82	7.86	0.099
ガラス類	-	125.38	0.4348	27.80	10.99	0.288
リターナルびん	41	10.40	0.0028	2.31	0.07	3.714
ワンウェイびん	42	82.96	0.3580	18.39	9.05	0.232
その他ガラス類	43	32.02	0.0740	7.10	1.87	0.433
その他	-	178.18	0.9990	39.50	25.26	0.178
陶磁器類	44	78.00	0.2560	17.29	6.47	0.305
複合素材	45	95.82	0.7260	21.24	18.36	0.132
医療系	46					
その他（乾電池など）	47	4.36	0.0170	0.97	0.43	0.256
その他（選別不能残渣類）	48	10.80	0.0210	2.40	0.52	0.514
総合計		451.15	3.9549	100.00	100.00	

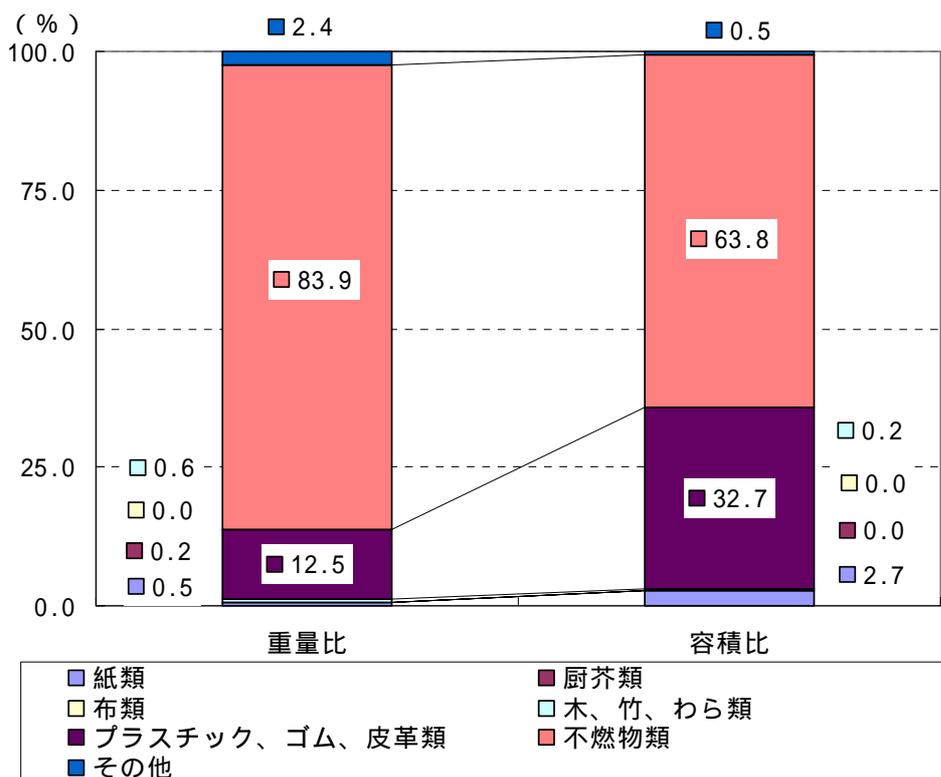


図2-13 大分類組成調査結果（本市全域：不燃ごみ）

表2-8 大分類組成調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

項目 分類	重量比				容積比			
	H20	H19	H18	H17	H20	H19	H18	H17
紙類	0.5%	4.0%	3.0%	1.0%	2.7%	7.5%	3.9%	6.7%
厨芥類	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
布類	0.0%	0.3%	0.8%	2.1%	0.0%	0.2%	0.3%	2.4%
木,竹,わら類	0.6%	0.2%	0.4%	0.7%	0.2%	0.2%	0.5%	1.2%
プラスチック, ゴム,皮革類	12.5%	10.7%	20.8%	15.5%	32.7%	32.0%	45.8%	40.8%
不燃物類	83.9%	83.4%	74.1%	78.8%	63.8%	59.6%	49.4%	48.1%
その他	2.4%	1.3%	0.8%	1.9%	0.5%	0.6%	0.1%	0.8%

H17年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成17年11月）

H18年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成18年11月）

H19年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成19年11月）

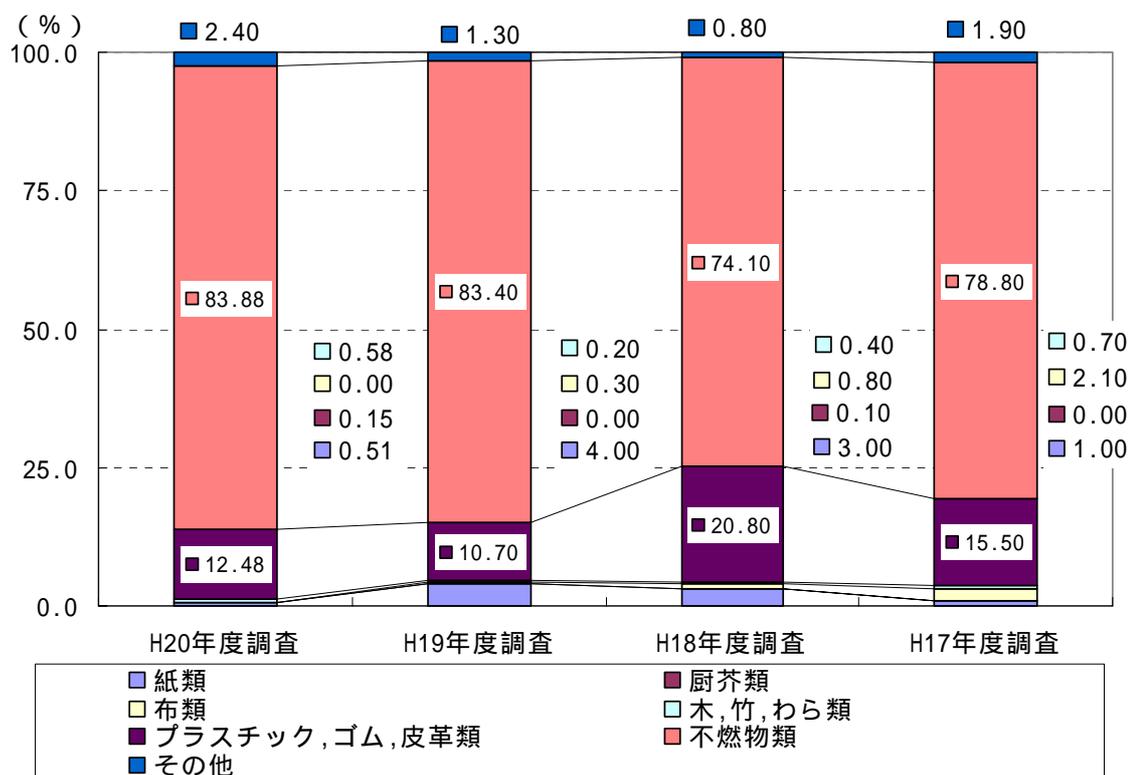


図2-14 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

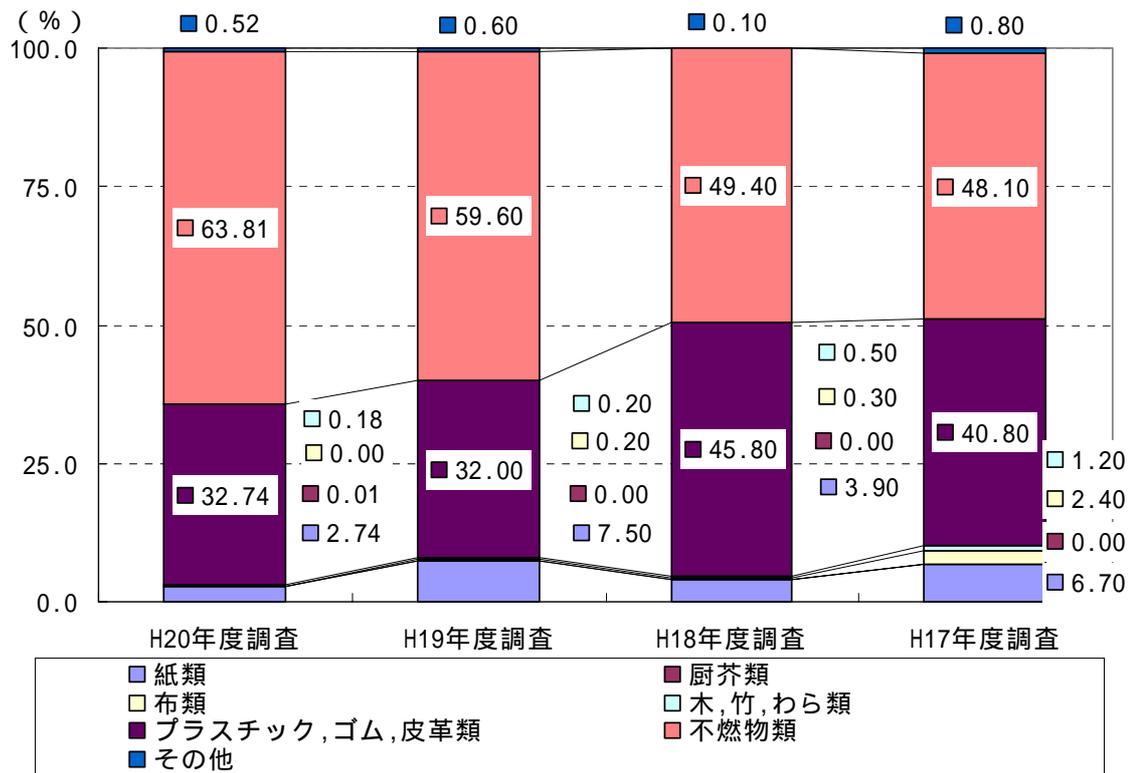


図2-15 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

(2) 西部地区

今回実施した西部地区の不燃ごみの組成分析調査の大分類の結果を表 2-9 に示した。

西部地区の重量比で 10% 以上の大分類の組成項目は「プラスチック, ゴム, 皮革類」(19.1%)、「不燃物類」(77.8%) の 2 種で、全体の約 96.9% を占めていた。個別にみると、「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではその他プラスチック類 (9.2%)、ゴム・比較類 (7.7%) が、「不燃物類」ではワンウェイびん (20.9%)、陶磁器類 (12.2%)、複合素材 (20.2%) の構成割合が高かった。

次に本市全域の容積比で 10% 以上の大分類の組成項目は重量比と同様に「プラスチック, ゴム, 皮革類」(44.4%)、「不燃物類」(56.4%) の 2 種類であり、全体の約 99% を占めていた。個別にみると「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではレジ袋 (7.4%)、その他プラスチック類 (17.0%)、ごみ袋 (13.0%) が、「不燃物類」ではスチール缶 (9.3%)、ワンウェイびん (8.9%)、複合素材 (17.5%) の構成割合が高かった。

図 2-16 に重量比と容積比の比較を示したが、本市全域と同様の傾向が確認された。

次に、経年的な組成分析調査の結果を表 2-10、図 2-17 ~ 18 に示した。

本年度の調査結果については、過去の調査結果と比較しても紙類の構成比が低いことが特徴的である。また、全体的な構成比は平成 18 年度の構成比に類似していた。

表2-9 大分類組成調査結果1 (西部地区:不燃ごみ)

項目	西部地区(不燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	1.23	0.0040	0.55	0.20	0.308
牛乳パック	-	0.11	0.0010	0.05	0.05	0.110
500m/以上	1	0.11	0.0010	0.05	0.05	0.110
500m/未満	2					
ダンボール	3					
書類・雑誌類	4					
新聞紙	-					
新聞紙	5					
新聞紙(水分含む)	6					
広告紙	-					
広告紙	7					
広告紙(水分含む)	8					
紙製容器	9	0.16	0.0010	0.07	0.05	0.160
紙製包装	-	0.94	0.0010	0.42	0.05	0.940
包装類	10	0.94	0.0010	0.42	0.05	0.940
包装類(ごみ出し用)	11					
OA用紙	12	0.02	0.0010	0.01	0.05	0.020
シュレッダーくず	13					
その他	-					
リサイクル可能物	14					
リサイクル不可能物	-					
汚れのひどい紙類	15					
紙おむつ類	16					
厨芥類	-					
食品類	-					
手付かずの食品	17					
調理くず等	18					
食品類以外	19					
布類	-					
リサイクル可能物	20					
リサイクル不可能物	21					
木、竹、わら類	-	2.36	0.0060	1.06	0.30	0.393
剪定枝	22					
その他	23	2.36	0.0060	1.06	0.30	0.393
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	42.46	0.9004	19.12	44.38	0.047
ペットボトル	-	0.98	0.0512	0.44	2.52	0.019
リサイクル可能物	24	0.74	0.0500	0.33	2.46	0.015
リサイクル不可能物	25	0.24	0.0012	0.11	0.06	0.200
レジ袋	-	0.38	0.1510	0.17	7.44	0.003
リサイクル可能物	26	0.24	0.0880	0.11	4.34	0.003
リサイクル不可能物	27	0.14	0.0630	0.06	3.11	0.002
トレイ	-					
リサイクル可能物	-					
白色トレイ	28					
その他トレイ	29					
リサイクル不可能物	30					
プラスチック製容器包装類	-	1.24	0.0160	0.56	0.79	0.078
リサイクル可能物	31	0.46	0.0130	0.21	0.64	0.035
リサイクル不可能物	32	0.78	0.0030	0.35	0.15	0.260
その他プラスチック類	33	20.56	0.3440	9.26	16.96	0.060
ごみ袋	-	2.22	0.2630	1.00	12.96	0.008
透明・半透明袋	34	0.84	0.0880	0.38	4.34	0.010
その他の色袋	35					
レジ袋	36	1.38	0.1750	0.62	8.63	0.008
ゴム・皮革類	37	17.08	0.0752	7.69	3.71	0.227

表2-9 大分類組成調査結果2（西部地区：不燃ごみ）

項目	西部地区（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
不燃物類	-	172.72	1.1084	77.76	54.63	0.156
金属類	-	32.68	0.4280	14.71	21.10	0.076
スチール缶	38	16.06	0.1880	7.23	9.27	0.085
アルミ缶	39	2.58	0.1150	1.16	5.67	0.022
その他金属類	40	14.04	0.1250	6.32	6.16	0.112
ガラス類	-	66.68	0.2034	30.02	10.03	0.328
リターナルびん	41	9.14	0.0014	4.12	0.07	6.529
ワンウェイびん	42	46.40	0.1800	20.89	8.87	0.258
その他ガラス類	43	11.14	0.0220	5.02	1.08	0.506
その他	-	73.36	0.4770	33.03	23.51	0.154
陶磁器類	44	27.08	0.1130	12.19	5.57	0.240
複合素材	45	44.76	0.3550	20.15	17.50	0.126
医療系	46					
その他（乾電池など）	47	1.52	0.0090	0.68	0.44	0.169
その他（選別不能残渣類）	48	3.34	0.0100	1.51	0.49	0.334
総合計		222.11	2.0288	100.00	100.00	

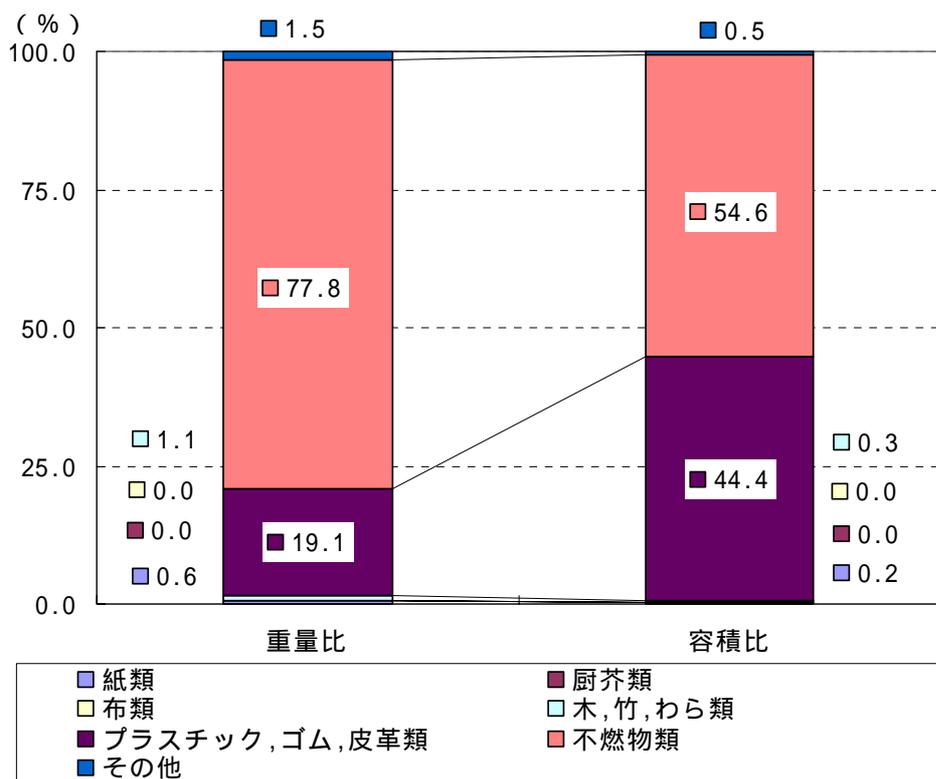


図2-16 大分類組成調査結果（西部地区：不燃ごみ）

表2-10 大分類組成調査結果の比較（西部地区：不燃ごみ）

分類	重量比				容積比			
	H20	H19	H18	H17	H20	H19	H18	H17
紙類	0.6%	3.2%	4.9%	1.5%	0.2%	6.0%	4.1%	8.9%
厨芥類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
布類	0.0%	(0.01%)	0.1%	2.2%	0.0%	(0.04%)	0.2%	2.3%
木、竹、わら類	1.1%	0.1%	1.4%	0.7%	0.3%	(0.04%)	1.1%	2.1%
プラスチック、 ゴム、皮革類	19.1%	11.9%	15.6%	19.1%	44.4%	33.2%	39.8%	47.0%
不燃物類	77.8%	83.4%	76.8%	75.4%	54.6%	60.5%	54.6%	39.0%
その他	1.5%	1.5%	1.2%	1.1%	0.5%	0.2%	0.2%	0.7%

H17年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成17年11月）
 H18年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成18年11月）
 H19年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書（平成19年11月）

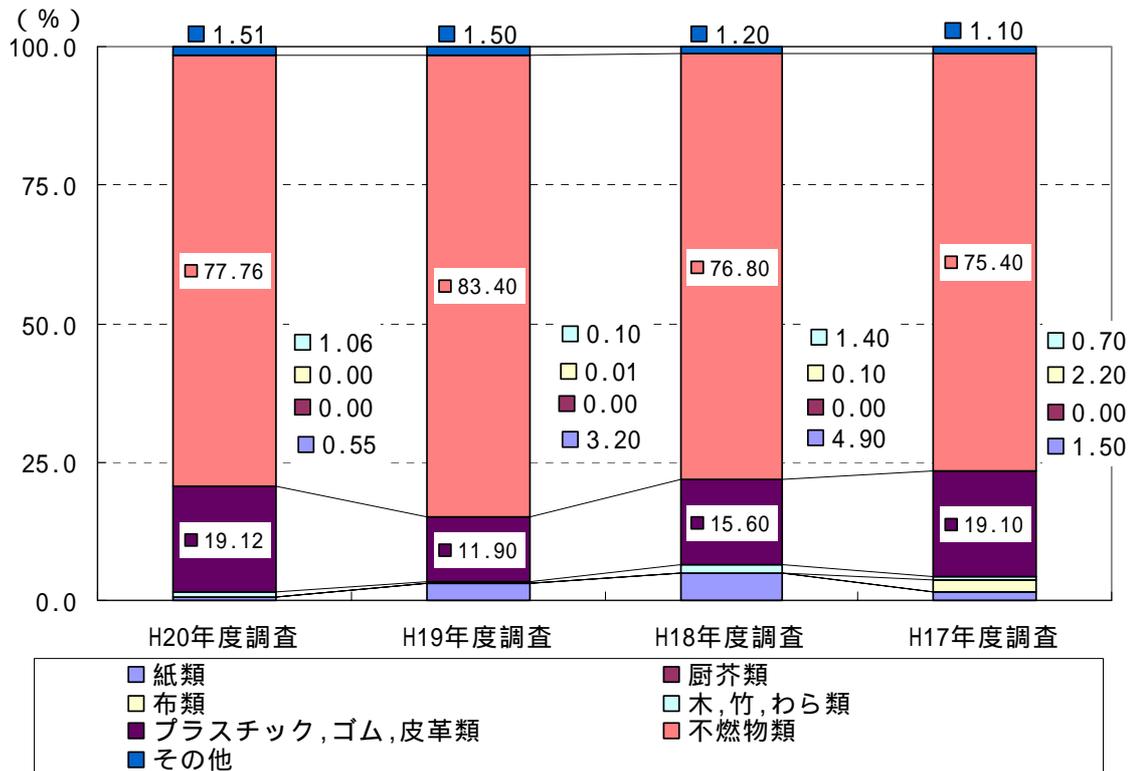


図2-17 重量比の大分類組成調査結果の比較（西部地区：不燃ごみ）

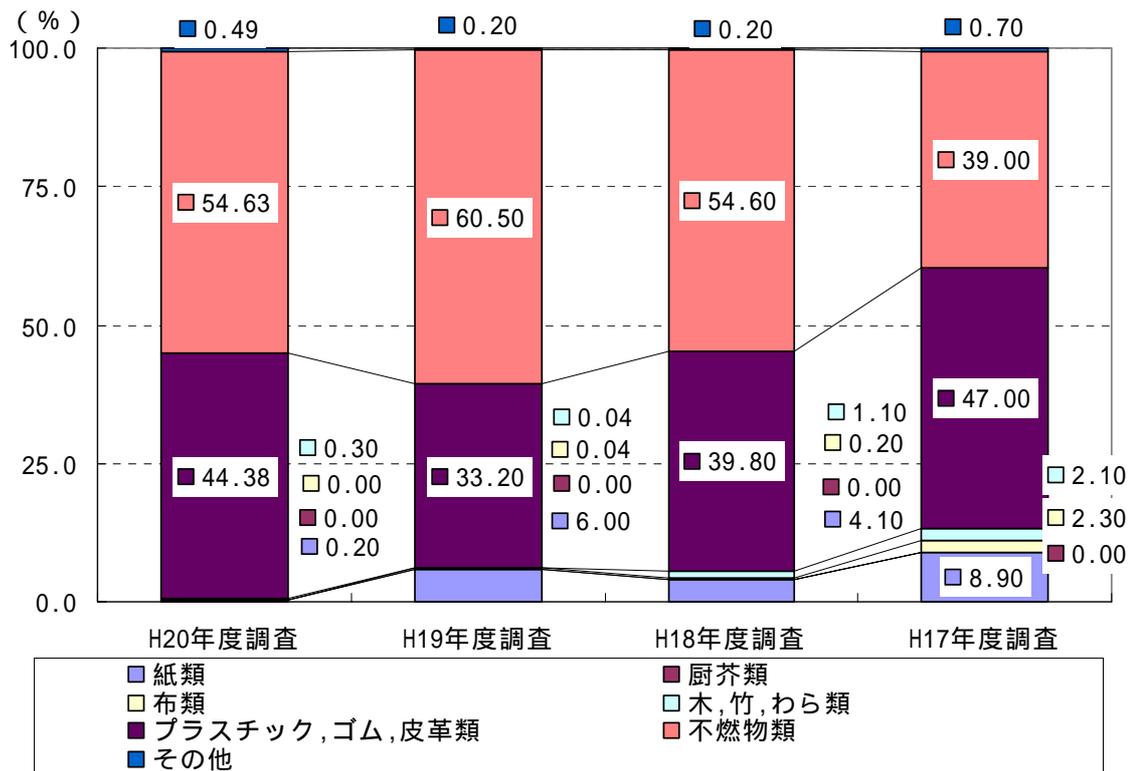


図2-18 容積比の大分類組成調査結果の比較（西部地区：不燃ごみ）

（3）東部地区

今回実施した東部地区の不燃ごみの組成分析調査の大分類の結果を表 2-11 に示した。

東部地区の重量比で 10% 以上の大分類の組成項目は「不燃物類」（89.8%）の 1 種類であった。個別には「不燃物類」ではスチール缶（9.1%）、その他金属類（7.3%）、ワンウェイびん（16.0%）、その他ガラス類（9.1%）、陶磁器類（22.2%）、複合素材（22.3%）の構成割合が高くなっていた。

次に東部地区の容積比で 10% 以上の大分類の組成項目は「プラスチック、ゴム、皮革類」（20.5%）、「不燃物類」（73.5%）の 2 種類であり、全体の約 94.0% を占めていた。個別にみると「プラスチック、ゴム、皮革類」ではペットボトル（3.2%）、プラスチック製容器包装（3.3%）、その他プラスチック類（3.9%）、ごみ袋（10.1%）が、「不燃物類」ではスチール缶（15.5%）、アルミ缶（9.2%）、その他金属類（9.7%）、ワンウェイびん（9.2%）、陶磁器類（7.4%）、複合素材（19.3%）の構成割合が高かった。

図 2-19 に重量比と容積比の比較を示したが、本市全域と同様の傾向が確認された。

次に、経年的な組成分析調査の結果を表 2-12、図 2-20～21 に示した。

本年度の調査結果では、レジ袋（20L）での排出が多かったこともあり、ごみ袋に入れたレジ袋が確認されなかったことや、紙類の構成比も少なかったことが特徴であった。

表2-11 大分類組成調査結果 1 (東部地区：不燃ごみ)

項目	東部地区 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比 (%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	1.12	0.1040	0.49	5.41	0.011
牛乳パック	-					
500m/以上	1					
500m/未満	2					
ダンボール	3					
書類・雑誌類	4					
新聞紙	-	0.44	0.0550	0.19	2.86	0.008
新聞紙	5	0.44	0.0550	0.19	2.86	0.008
新聞紙 (水分含む)	6					
広告紙	-					
広告紙	7					
広告紙 (水分含む)	8					
紙製容器	9	0.34	0.0040	0.15	0.21	0.085
紙製包装	-	0.34	0.0450	0.15	2.34	0.008
包装類	10	0.34	0.0450	0.15	2.34	0.008
包装類 (ごみ出し用)	11					
OA用紙	12					
シュレッダーくず	13					
その他	-					
リサイクル可能物	14					
リサイクル不可能物	-					
汚れのひどい紙類	15					
紙おむつ類	16					
厨芥類	-	0.66	0.0003	0.29	0.02	2.200
食品類	-	0.66	0.0003	0.29	0.02	2.200
手付かずの食品	17	0.66	0.0003	0.29	0.02	2.200
調理くず等	18					
食品類以外	19					
布類	-					
リサイクル可能物	20					
リサイクル不可能物	21					
木、竹、わら類	-	0.26	0.0010	0.11	0.05	0.260
剪定枝	22					
その他	23	0.26	0.0010	0.11	0.05	0.260

表2-11 大分類組成調査結果2（東部地区：不燃ごみ）

項目	東部地区（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	13.92	0.3944	6.08	20.48	0.035
ペットボトル	-	2.34	0.0612	1.02	3.18	0.038
リサイクル可能物	24	1.04	0.0600	0.45	3.12	0.017
リサイクル不可能物	25	1.30	0.0012	0.57	0.06	1.083
レジ袋	-					
リサイクル可能物	26					
リサイクル不可能物	27					
トレイ	-					
リサイクル可能物	-					
白色トレイ	28					
その他トレイ	29					
リサイクル不可能物	30					
プラスチック製容器包装類	-	3.80	0.0630	1.66	3.27	0.060
リサイクル可能物	31	0.46	0.0080	0.20	0.42	0.058
リサイクル不可能物	32	3.34	0.0550	1.46	2.86	0.061
その他プラスチック類	33	5.24	0.0750	2.29	3.89	0.070
ごみ袋	-	2.38	0.1950	1.04	10.12	0.012
透明・半透明袋	34	0.84	0.0950	0.37	4.93	0.009
その他の色袋	35					
レジ袋	36	1.54	0.1000	0.67	5.19	0.015
ゴム・皮革類	37	0.16	0.0002	0.07	0.01	0.800
不燃物類	-	205.62	1.4154	89.77	73.48	0.145
金属類	-	42.10	0.6620	18.38	34.37	0.064
スチール缶	38	20.80	0.2980	9.08	15.47	0.070
アルミ缶	39	4.58	0.1780	2.00	9.24	0.026
その他金属類	40	16.72	0.1860	7.30	9.66	0.090
ガラス類	-	58.70	0.2314	25.63	12.01	0.254
リターナルびん	41	1.26	0.0014	0.55	0.07	0.900
ワンウェイびん	42	36.56	0.1780	15.96	9.24	0.205
その他ガラス類	43	20.88	0.0520	9.12	2.70	0.402
その他	-	104.82	0.5220	45.76	27.10	0.201
陶磁器類	44	50.92	0.1430	22.23	7.42	0.356
複合素材	45	51.06	0.3710	22.29	19.26	0.138
医療系	46					
その他（乾電池など）	47	2.84	0.0080	1.24	0.42	0.355
その他（選別不能残渣類）	48	7.46	0.0110	3.26	0.56	0.678
総合計		229.04	1.9261	100.00	100.00	

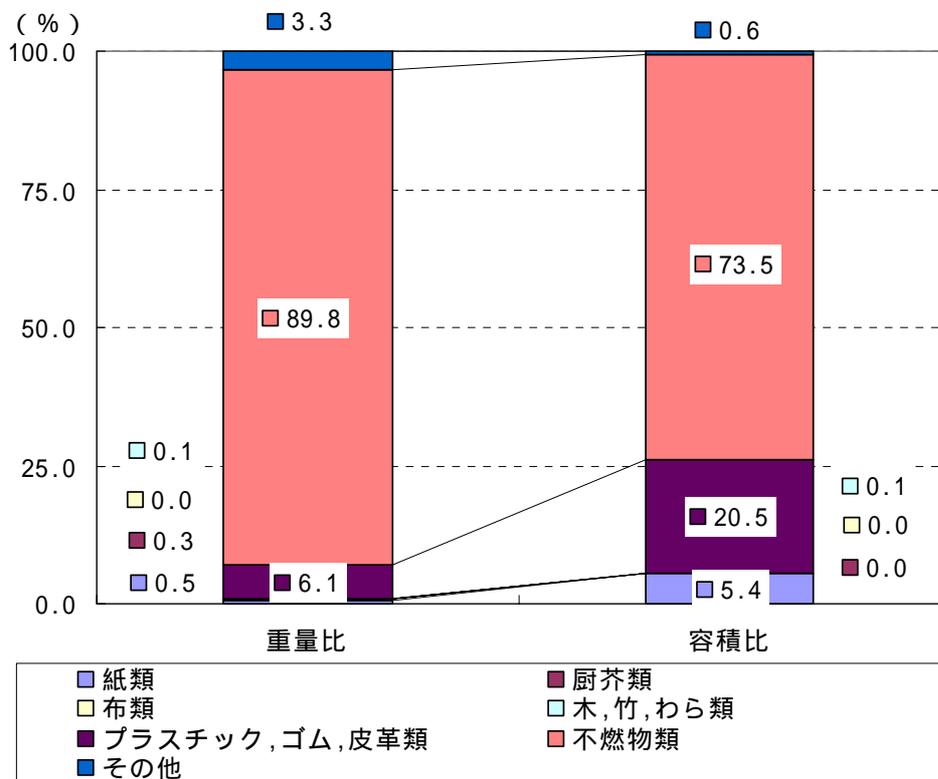


図2-19 大分類組成調査結果 (東部地区：不燃ごみ)

表2-12 大分類組成調査結果の比較 (東部地区：不燃ごみ)

分類	重量比				容積比			
	H20	H19	H18	H17	H20	H19	H18	H17
紙類	0.5%	4.9%	1.1%	0.6%	5.4%	8.8%	3.8%	4.4%
厨芥類	0.3%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
布類	0.0%	0.6%	1.5%	2.0%	0.0%	0.3%	0.3%	2.5%
木, 竹, わら類	0.1%	0.3%	0.1%	0.8%	0.1%	0.3%	0.0%	0.3%
プラスチック, ゴム, 皮革類	6.1%	9.5%	26.0%	12.3%	20.5%	30.8%	51.9%	34.2%
不燃物類	89.8%	83.4%	70.9%	81.9%	73.5%	58.8%	43.8%	57.9%
その他	3.3%	1.2%	0.3%	2.6%	0.6%	1.0%	0.1%	0.8%

H17年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書 (平成17年11月)

H18年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書 (平成18年11月)

H19年度調査結果：岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書 (平成19年11月)

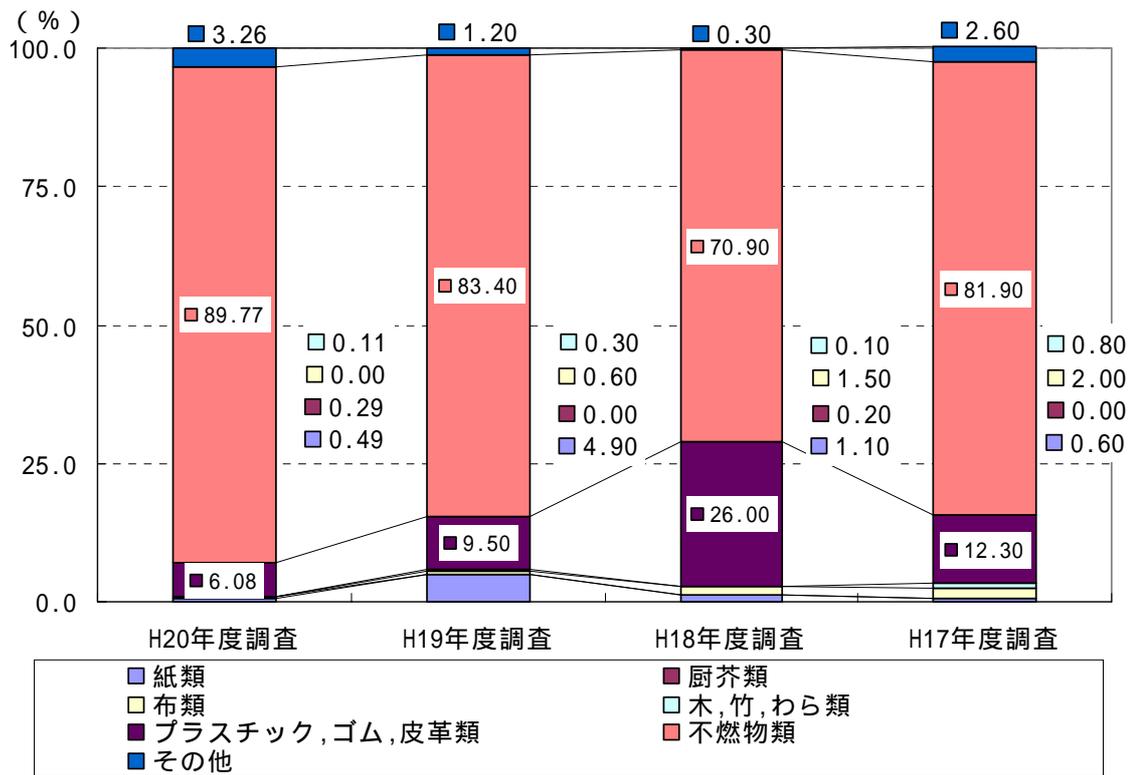


図2-20 重量比の大分類組成調査結果の比較（東部地区：不燃ごみ）

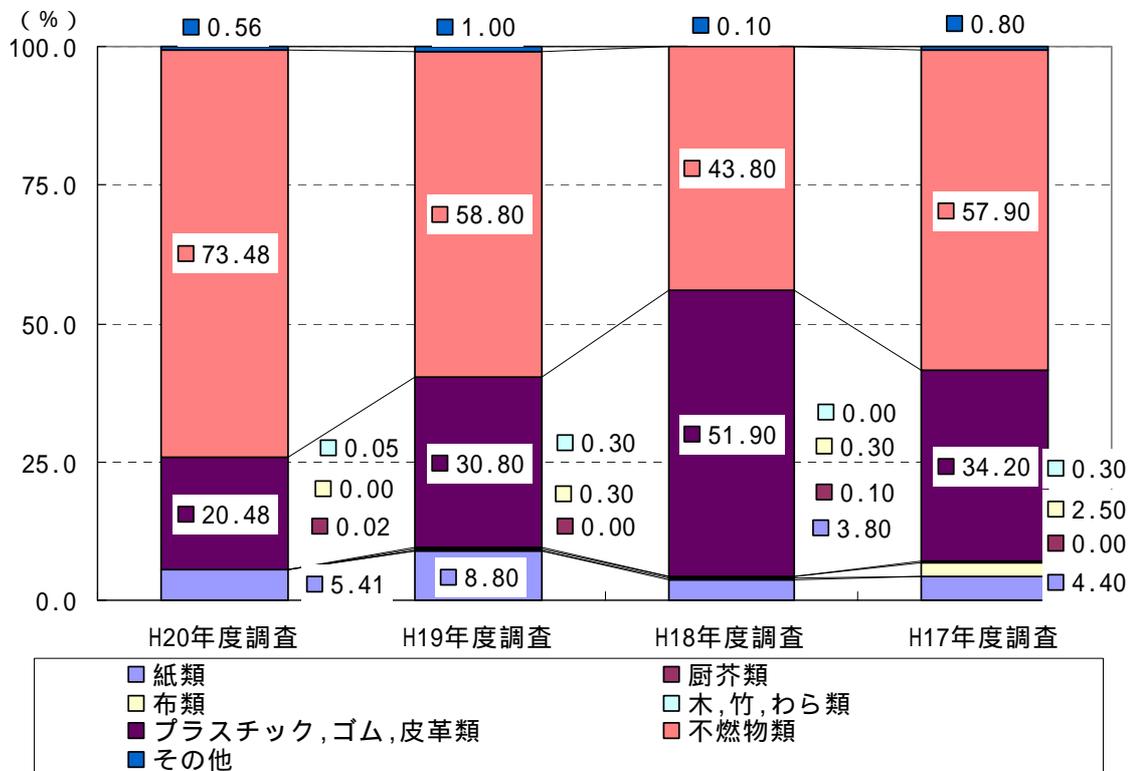


図2-21 容積比の大分類組成調査結果の比較（東部地区：不燃ごみ）

(4) 不燃ごみの排出特性の総括

平成 17～19 年度の本市全域、西部地区、東部地区の構成比を比較した結果を図 2-22～23 に示した。

西部地区と東部地区では西部地区では「プラスチック, ゴム, 皮革類」の構成比が高く、東部地区では「不燃物類」の構成比が高い状況が確認された。

また、本市全域の重量比について、今回の調査結果と過去の調査結果を比較すると、「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではペットボトルの構成比が 0.08% (H19) から 0.7% に増加、トレイについては混入しておらず、「不燃物類」ではワンウェイびんと複合素材の構成比が高くなっていることが特徴としてあげられる。

本年度の調査では、東部地区と西部地区で地域的な排出形態の差が顕著に現れていることから、今後も継続した調査を行いつつ、啓発効果の状況を評価していく必要がある。

図 2-24 に不燃ごみの特性比較を行ったが、構成比の分布状況については、紙類やプラスチック, ゴム, 皮革類の構成比が異なっているものの、不燃物類としての構成比は昨年と同様の傾向であった。

なお、可燃ごみと同様に平成 21 年 2 月よりごみ袋の有料化を実施することから、排出されるごみに大きく影響を与えるものと考えられるため、来年度の調査において十分な調査を実施していく必要がある。

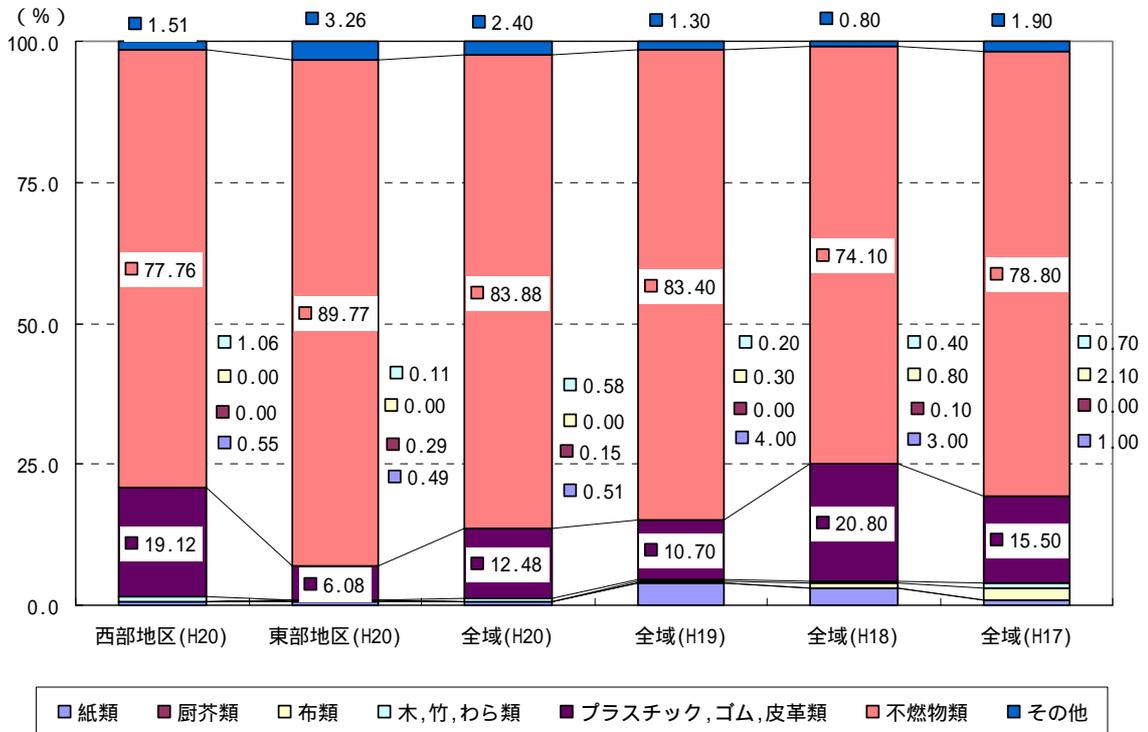


図2-22 大分類組成調査の比較 (重量比: 不燃ごみ)

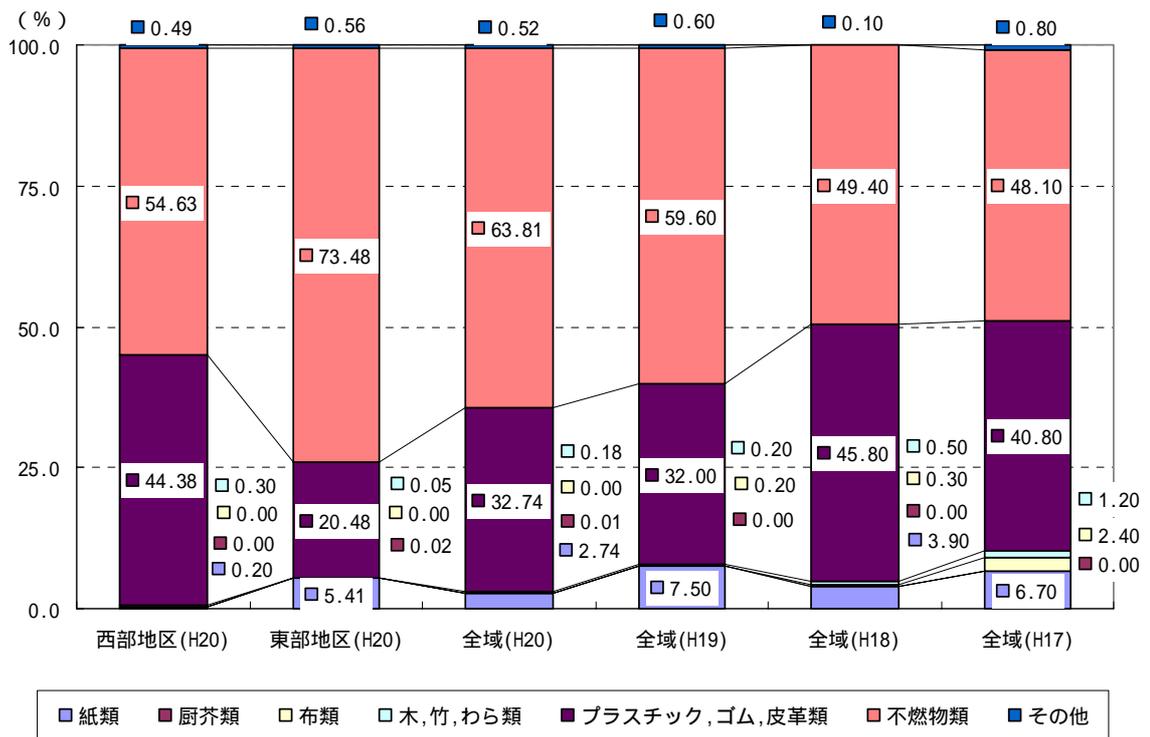


図2-23 大分類組成調査の比較（容積比：不燃ごみ）

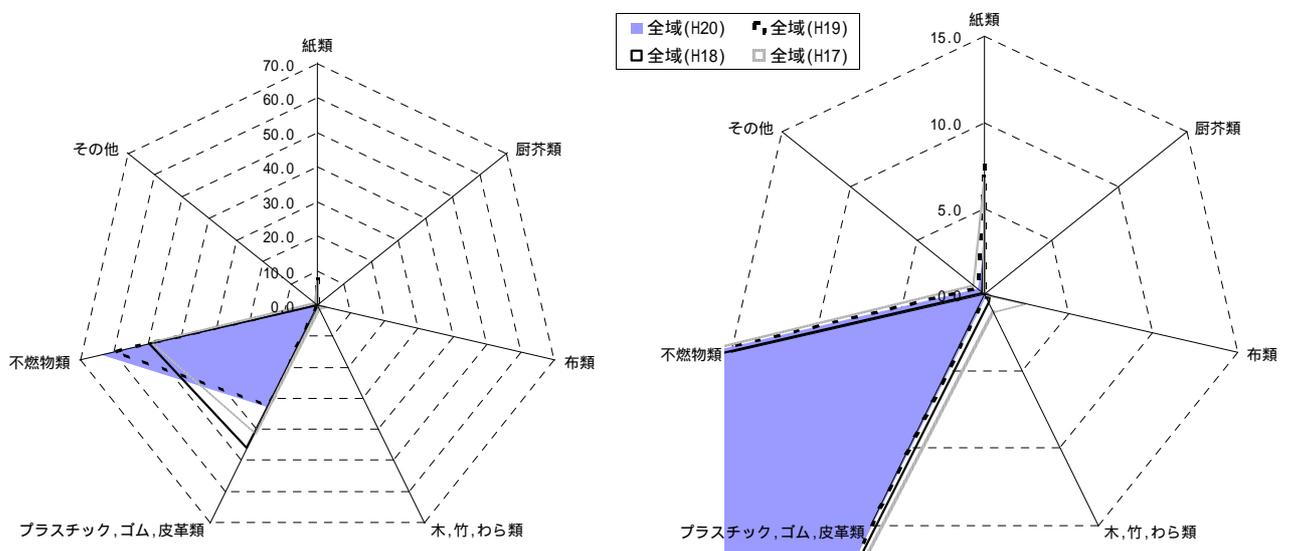


図2-24 不燃ごみの特性比較（重量比：左図-全体、右図-拡大）

第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみの適正分別の状況把握を行っている。

1 可燃ごみの状況把握

西部地区及び東部地区の可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表2-13、図2-25に示した。

可燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地区で約89.8%（H19：85.6%）、東部地区で約91.8%（H19：83.2%）となっており、本市全域で見ると約90.8%（H19：84.3%）と、適正分別の構成比が昨年と比較して大幅に増加しており、適正分別が浸透してきているものと推察される。

可燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約9.1%（H19：15.2%）であり、昨年度の構成比より改善傾向が確認された。混入している資源化物としては、図2-26に示すように書籍・雑誌類、新聞紙、布類などが多く混入していた。同様に、混入していた不燃ごみは、本市全域で約0.2%（H19：0.5%）とほぼ昨年と同様な傾向が確認されており、分別の適正化が浸透しているものと推察される。

なお、平成20年12月よりざつかみの回収や古紙類などの回収回数の増加や、平成21年2月のごみ袋の有料化の開始など施策を展開することから、適正分別が進んでいくものと考えられる。

表2-13 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分（現行区分ベース）	西部地区	東部地区	本市全域
可燃ごみ	100.00 %	100.00 %	100.00 %
混入していた資源化物	10.00 %	8.09 %	9.06 %
牛乳パック	0.58 %	0.46 %	0.52 %
ダンボール	0.68 %	1.27 %	0.97 %
書籍・雑誌類	3.08 %	1.07 %	2.10 %
新聞紙	0.47 %	2.00 %	1.22 %
広告紙	1.10 %	0.00 %	0.56 %
布類	3.46 %	2.47 %	2.97 %
ペットボトル	0.33 %	0.39 %	0.36 %
白色トレイ	0.09 %	0.04 %	0.07 %
スチール缶	0.09 %	0.19 %	0.14 %
アルミ缶	0.05 %	0.02 %	0.03 %
リターナブルびん	0.00 %	0.00 %	0.00 %
ワンウェイびん	0.07 %	0.18 %	0.12 %
乾電池	0.00 %	0.00 %	0.00 %
混入していた不燃ごみ	0.20 %	0.16 %	0.19 %
可燃ごみ（適正排出分）	89.80 %	91.75 %	90.75 %

上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

混入していた不燃ごみは「不燃物類 - スチール缶 - アルミ缶 - リターナブルびん - ワンウェイびん - 乾電池等」で算出している。

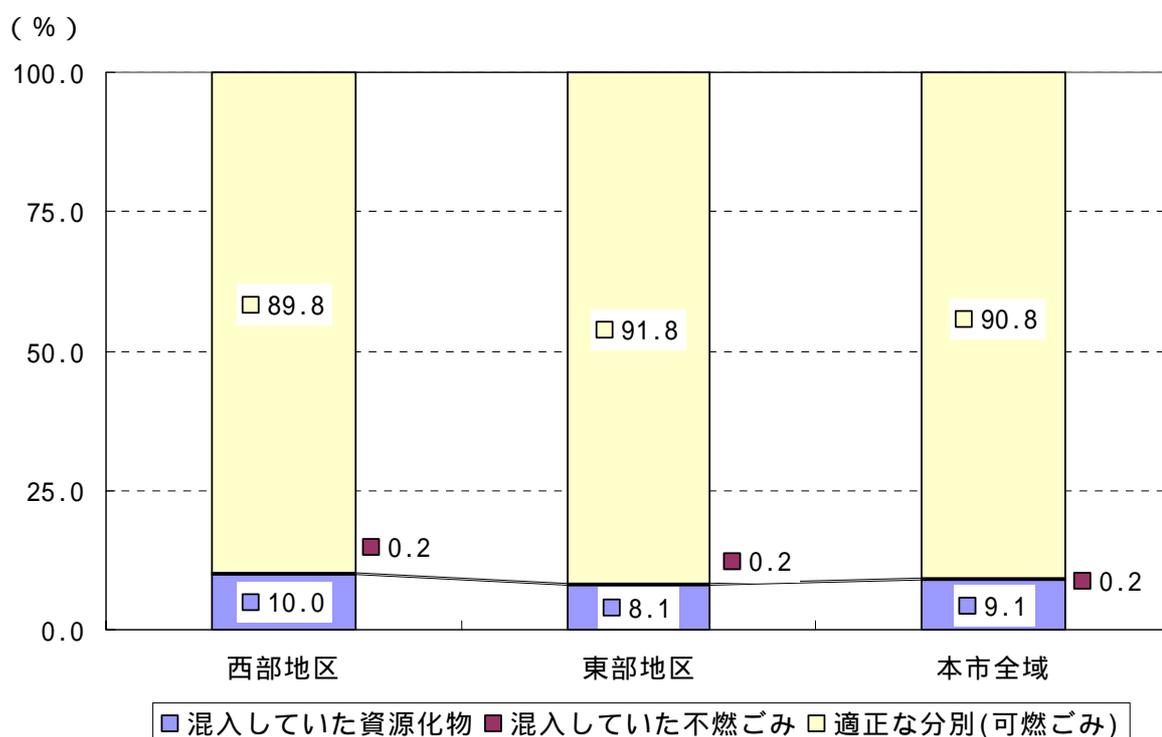


図2-25 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況(重量比)

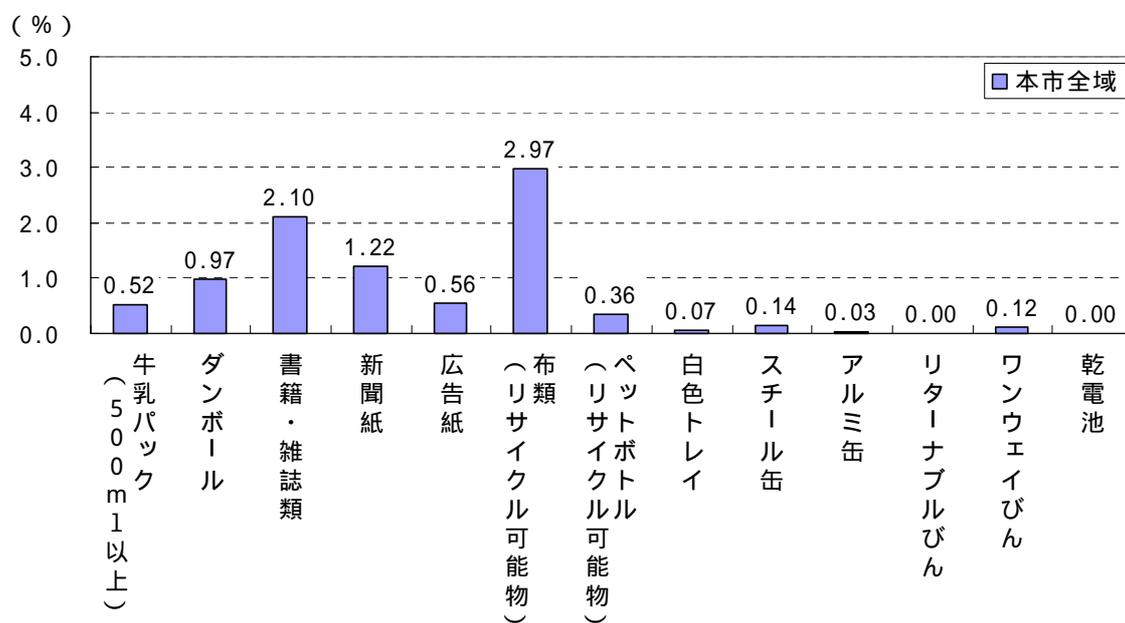


図2-26 可燃ごみに混入していた資源化物の状況(重量比)

2 不燃ごみの状況把握

西部地区及び東部地区の不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表 2-14、図 2-27 に示した。

不燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地区で約 46.6% (H19: 55.9%) と昨年度調査結果より適正分別の構成比が低くなっていた。一方で、東部地区では約 66.2% (H19: 64.2%) となっており、適正分別の構成比は高くなっていた。結果として本市全域で見ると約 55.9% (H19: 58.7%) と、やや適正分別の構成比が低くなっていた。

本要因としては、可燃ごみの混入割合が本市全域で 12.2% (H19: 12.7%) とほぼ昨年度の調査結果と同様であったのに対し、資源化物の混入割合が本市全域で約 31.9% (H19: 28.7%) と増加していたことに起因して、適正分別の構成比が低下していることがわかる。また、図 2-28 に示すように、スチール缶、ワンウェイびんなどの分別し易い品目が多く混入していることから、今後も啓発を行う必要があると考えられる。

なお、不燃ごみについても可燃ごみと同様に平成 21 年 2 月よりごみ袋の有料化を実施することから、適正分別が進んでいくものと推察される。

表2-14 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況 (重量比)

区分 (現行区分ベース)	西部地区	東部地区	本市全域
不燃ごみ	100.00 %	100.00 %	100.00 %
混入していた資源化物	34.03 %	28.49 %	31.94 %
牛乳パック	0.05 %	0.00 %	0.02 %
ダンボール	0.00 %	0.00 %	0.00 %
書籍・雑誌類	0.00 %	0.00 %	0.00 %
新聞紙	0.00 %	0.19 %	0.10 %
広告紙	0.00 %	0.00 %	0.00 %
布類	0.00 %	0.00 %	0.00 %
ペットボトル	0.33 %	0.45 %	0.39 %
白色トレイ	0.00 %	0.00 %	0.00 %
スチール缶	7.23 %	9.08 %	8.17 %
アルミ缶	1.16 %	2.00 %	1.59 %
リターナブルびん	4.12 %	0.55 %	2.31 %
ワンウェイびん	20.89 %	15.96 %	18.39 %
乾電池等	0.25 %	0.26 %	0.97 %
混入していた可燃ごみ	19.35 %	5.29 %	12.19 %
不燃ごみ (適正排出分)	46.62 %	66.22 %	55.87 %

上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

混入していた可燃ごみは「(紙類+布類+厨芥類+木、竹、わら類+プラスチック類, ゴム, 皮革類)
- {牛乳パック(500ml以上)+新聞紙+広告紙+書籍・雑誌類+ダンボール+布類(リサイクル可能物)+ペットボトル(リサイクル可能物)+白色トレイ}- {包装類(ごみ出し用)+新聞紙(水分含む)+広告紙(水分含む)}」で算出している。

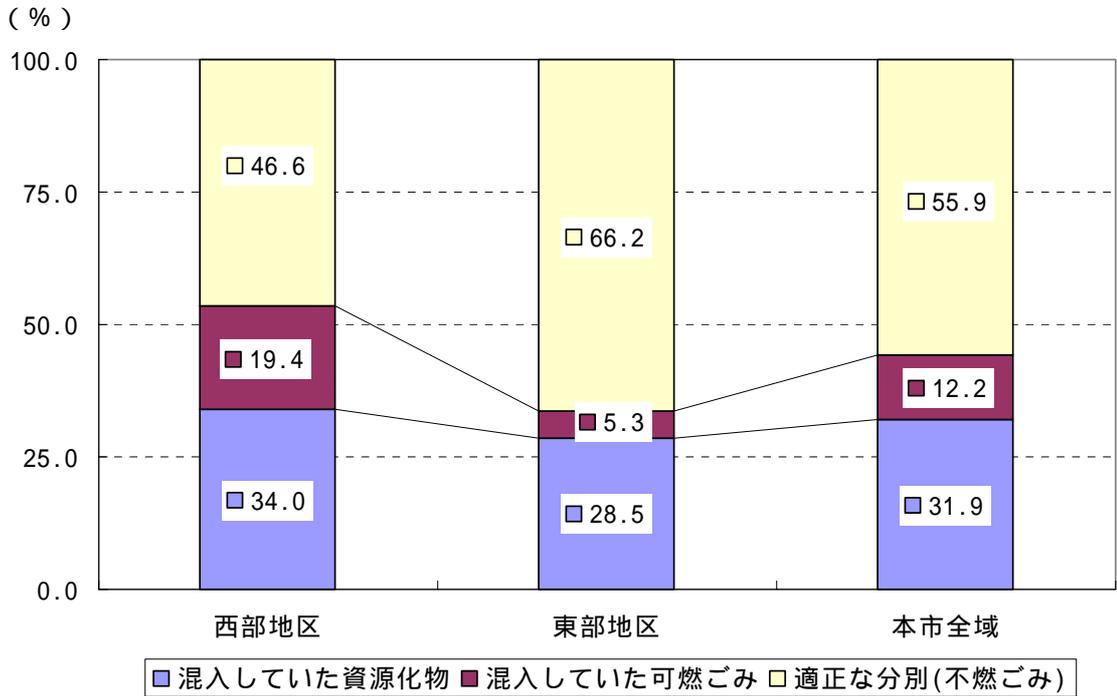


図2-27 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況(重量比)

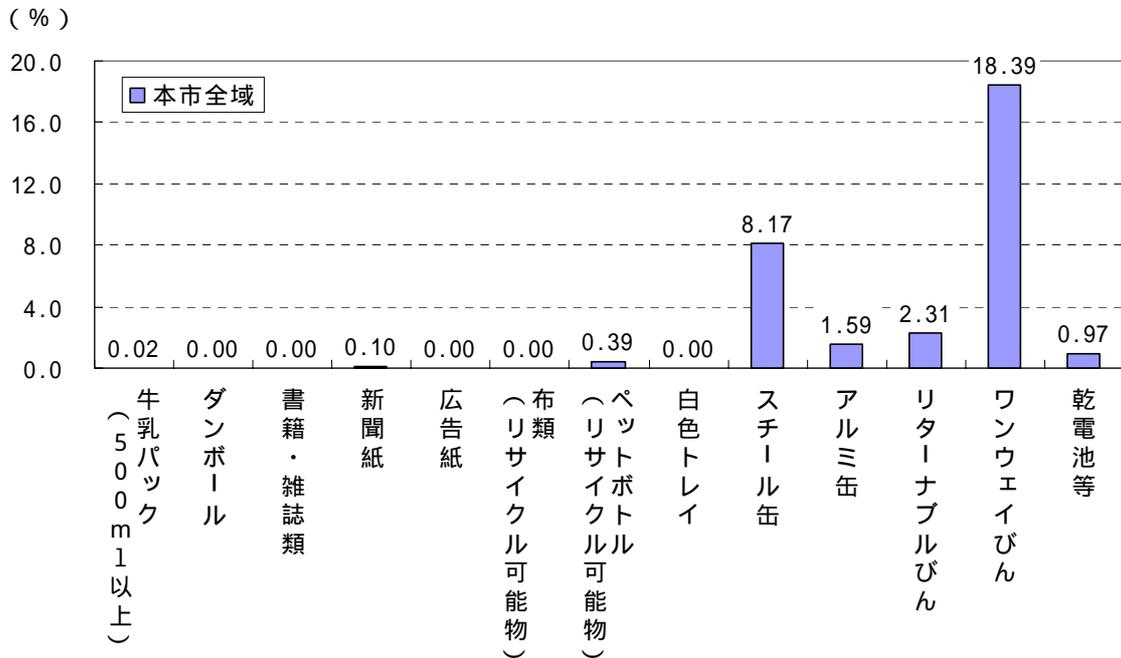


図2-28 不燃ごみに混入していた資源化物の状況(重量比)

第3節 容器包装廃棄物の混入状況の把握

本節では、可燃ごみ及び不燃ごみに混入する容器包装リサイクル法対象廃棄物の混入状況を把握している。

1 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地区及び東部地区の可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-15、図 2-29 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 11.8% (H19: 16.7%) と構成比が低くなっている状況が確認された。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物は、紙パック、ダンボール、ペットボトル、白色トレイ、スチール缶、アルミ缶、びん類(リターナルびん・ワンウェイびん)であり、これらの資源化対象物が可燃ごみに占める割合は、本市全域で約 2.5% (表 2-15 にて対象物に” ”のあるものの合計)であった。

また、平成 20 年 12 月よりざつかみの回収や古紙等の回収回数の増加、平成 21 年 2 月からのごみ袋の有料化の実施により、現在の排出状況は変化するものと考えられることから、平成 21 年度の調査時に施策実施前後の挙動を確認していく必要がある。

表2-15 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況(重量比)

項 目	西部地区	東部地区	本市全域	資源化対象
牛乳パック	0.93 %	0.55 %	0.74 %	
ダンボール	0.68 %	1.27 %	0.97 %	
紙製容器	2.32 %	2.19 %	2.26 %	
紙製包装	0.68 %	0.36 %	0.52 %	
ペットボトル	0.33 %	0.39 %	0.43 %	
トレイ	2.26 %	1.68 %	1.97 %	
(内白色トレイ)	0.09 %	0.04 %	0.07 %	
プラスチック製容器包装類	4.93 %	4.33 %	4.63 %	
スチール缶	0.09 %	0.19 %	0.14 %	
アルミ缶	0.05 %	0.02 %	0.03 %	
リターナルびん	0.00 %	0.00 %	0.00 %	
ワンウェイびん	0.07 %	0.18 %	0.12 %	
合 計	12.34 %	11.16 %	11.81 %	

上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示した各種データを採用している。

紙製包装は包装類と包装類(ごみ出し用)の合計値である。

牛乳パックは 500ml 以上と 500ml 未満の合計値である。

ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

プラスチック製容器包装類はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

缶類は金属類の缶類のみの値である。

リターナルびん及びワンウェイびんはガラス類のリターナルびん及びワンウェイびんの個々の値である。

紙製容器及び紙製包装については、平成 20 年 12 月よりざつかみとして回収予定の品目である。

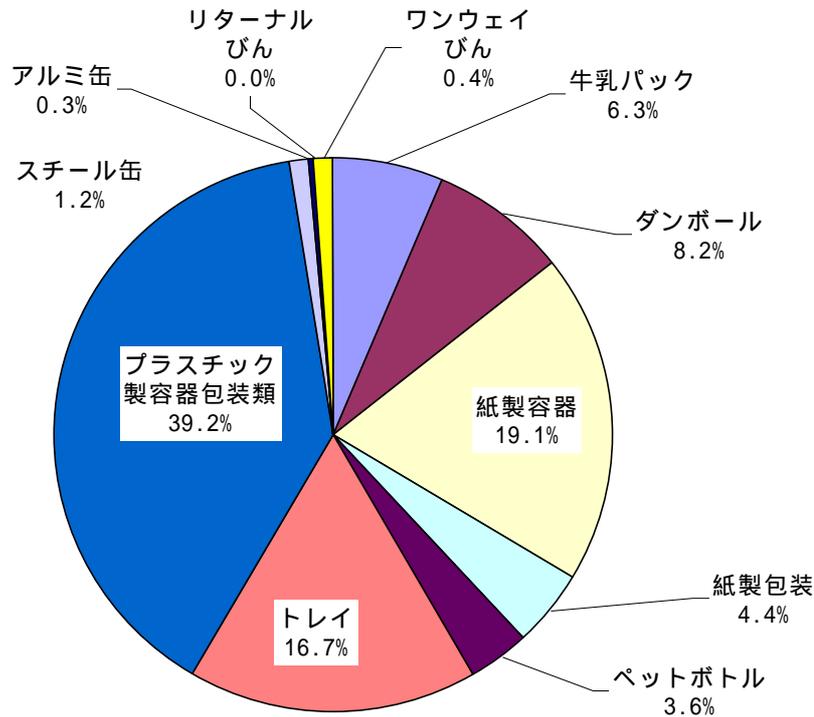


図2-29 可燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（本市全域：重量比）

2 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地区及び東部地区の可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-16、図 2-30 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 32.4%（H19：30.3%）となっており、構成比はやや増加傾向にある。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物が不燃ごみに占める割合も、容器包装廃棄物の混入状況と同様に、本市全域で約 30.9%（表 2-16 参照にて対象物に” ”のあるものの合計）と、昨年の調査結果（26.9%）と比較して増加傾向であった。

容器包装廃棄物の構成割合としては、スチール缶、ワンウェイびんの構成比（図 2-30 参照）が高くなっているため、こうした品目の分別の徹底を図っていく必要があると考えられた。

一方で、平成 21 年 2 月よりごみ袋の有料化を実施するため、一定の適正分別は進んでいくものと考えられるため、平成 21 年度の調査時に施策実施前後の挙動を確認していく必要がある。

表2-16 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地区	東部地区	本市全域	資源化対象
牛乳パック	0.05 %	0.00 %	0.02 %	
ダンボール	0.00 %	0.00 %	0.00 %	
紙製容器	0.07 %	0.15 %	0.11 %	
紙製包装	0.42 %	0.15 %	0.28 %	
ペットボトル	0.33 %	0.45 %	0.39 %	
トレイ （内白色トレイ）	0.00 %	0.00 %	0.00 %	
プラスチック製容器包装類	0.56 %	1.66 %	1.11 %	
スチール缶	7.23 %	9.08 %	8.17 %	
アルミ缶	1.16 %	2.00 %	1.59 %	
リターナルびん	4.12 %	0.55 %	2.31 %	
ワンウェイびん	20.89 %	15.96 %	18.39 %	
合計	34.83 %	30.00 %	32.37 %	

上表のデータは表 2-7、表 2-9、表 2-11 に示した各種データを採用している。

紙製包装は包装類と包装類（ごみ出し用）の合計値である。

牛乳パックは 500mℓ以上と 500mℓ未満の合計値である。

ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

プラスチック製容器包装類はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。

缶類は金属類の缶類のみの値である。

リターナルびん及びワンウェイびんはガラス類のリターナルびん及びワンウェイびんの個々の値である。

紙製容器及び紙製包装については、平成 20 年 12 月よりざつかみとして回収予定の品目である。

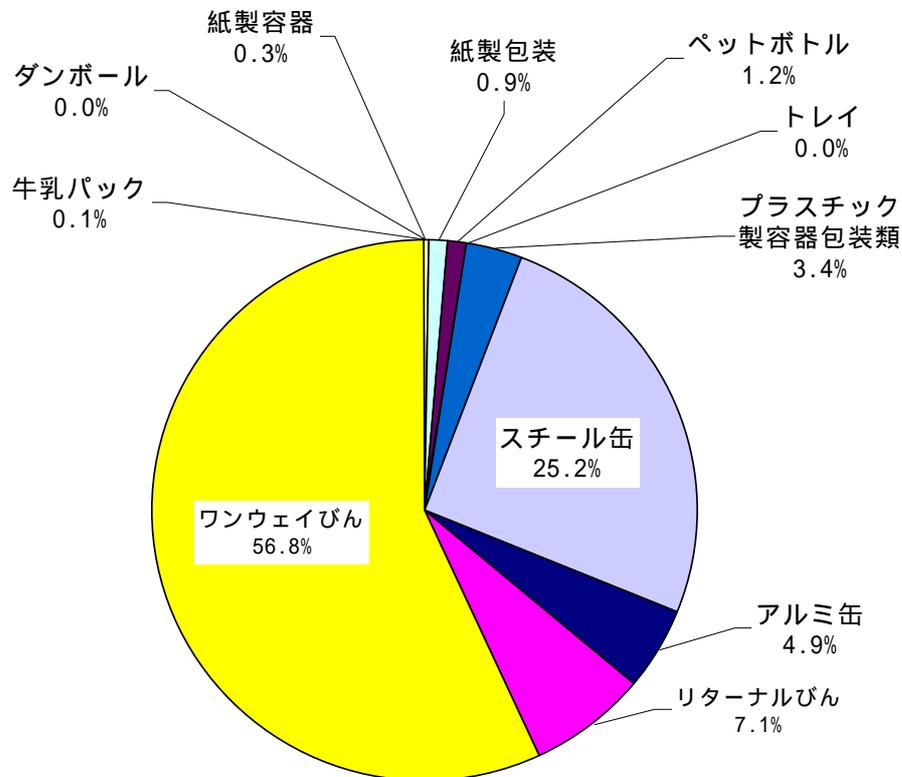


図2-30 不燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（本市全域：重量比）

第4節 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本節では、可燃ごみ及び不燃ごみ中に混入している再資源化及び減量化が可能なものを全てを抽出し、再資源化や減量化がどの程度可能であるか状況の把握を行った。

調査方法としては、汚れのないきれいなものと、汚れているもので組成品目を分類し、実際に再資源化できるかどうかという視点に立った検討を行っている。同時に、昨年と同様に、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんについては、錆がひどいものやごみが混入しているものなどを分別し、より詳細な排出状況を確認した。

1 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本市全域、西部地区及び東部地区の可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-17 及び図 2-31、図 2-32 に示した。

本市から排出された可燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は全体の約 10.8% (H19: 17.2%) を占めていた「紙類」(表 2-17 参照)であるが、構成比は減少傾向となっていることと、本年度より開始するざつかみ回収やごみ袋の有料化などにより、更に適正分別が進み構成比が低くなっていくものと推察された。

可燃ごみのうち減量化が可能な分類としては、これまでの調査結果と同様に本市全域の約 44.2% (H19: 32.1%) を占める「厨芥類」が挙げられる。本分類についても、生ごみ堆肥化容器の補助を実施する方針であることから、平成 21 年度の調査において施策実施前後の挙動を把握するものとする。

なお、本年度も食べ残しの削減や厨芥類の水切りなどの啓発を市民に行っていくことにより、ごみの減量化を進めていくものとする。

次に、本年度に追加確認を行ったスチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんのリサイクル可否に関する内訳を表 2-18 に整理した。結果として、今回の調査においては、上記の品目については昨年同様、全てリサイクル可能であることが確認できた。

表2-17 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区 分	西部地区	東部地区	本市全域
可燃ごみ	100.00 %	100.00 %	100.00 %
紙類	29.83 %	25.10 %	27.51 %
再資源化可能なもの	11.16 %	8.95 %	10.08 %
牛乳パック	0.93 %	0.55 %	0.74 %
段ボール	0.68 %	1.27 %	0.97 %
書籍・雑誌	3.08 %	1.07 %	2.10 %
新聞紙（きれいなもの）	0.47 %	2.00 %	1.22 %
広告紙（きれいなもの）	1.10 %	0.00 %	0.56 %
紙製容器類	2.32 %	2.19 %	2.26 %
紙製包装類（きれいなもの）	0.68 %	0.36 %	0.52 %
OA用紙	0.00 %	0.00 %	0.00 %
その他紙類（きれいなもの）	1.90 %	1.51 %	1.71 %
再資源化不可能なもの	18.67 %	16.15 %	17.43 %
厨芥類	44.17 %	44.92 %	44.54 %
減量化可能なもの	43.77 %	44.60 %	44.18 %
手付かずの食品	2.47 %	4.42 %	3.43 %
調理くず	41.30 %	40.18 %	40.75 %
減量化不可能なもの	0.41 %	0.32 %	0.36 %
布類	3.81 %	2.95 %	3.39 %
再資源化可能なもの	3.46 %	2.47 %	2.97 %
再資源化不可能なもの	0.35 %	0.48 %	0.42 %
プラスチック類	12.03 %	9.64 %	10.86 %
再資源化可能なもの	2.01 %	1.92 %	1.98 %
ペットボトル（きれいなもの）	0.33 %	0.39 %	0.36 %
レジ袋（きれいなもの）	0.43 %	0.26 %	0.35 %
白色トレイ	0.09 %	0.04 %	0.07 %
その他トレイ	0.30 %	0.46 %	0.38 %
プラスチック製容器包装類	0.86 %	0.77 %	0.82 %
再資源化不可能なもの	10.02 %	7.72 %	8.88 %
木、竹、わら類	9.30 %	12.26 %	10.75 %
不燃物類	0.41 %	0.55 %	0.48 %
再資源化可能なもの	0.31 %	0.46 %	0.37 %
スチール類（きれいなもの）	0.09 %	0.19 %	0.14 %
アルミ缶（きれいなもの）	0.05 %	0.02 %	0.03 %
その他金属類	0.10 %	0.08 %	0.09 %
リターナブルびん（きれいなもの）	0.00 %	0.00 %	0.00 %
ワンウェイびん（きれいなもの）	0.07 %	0.17 %	0.11 %
乾電池	0.00 %	0.00 %	0.00 %
蛍光灯	0.00 %	0.00 %	0.00 %
再資源化不可能なもの	0.10 %	0.09 %	0.11 %
その他分類できないもの	0.45 %	4.58 %	2.47 %

上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示した各種データを採用している。

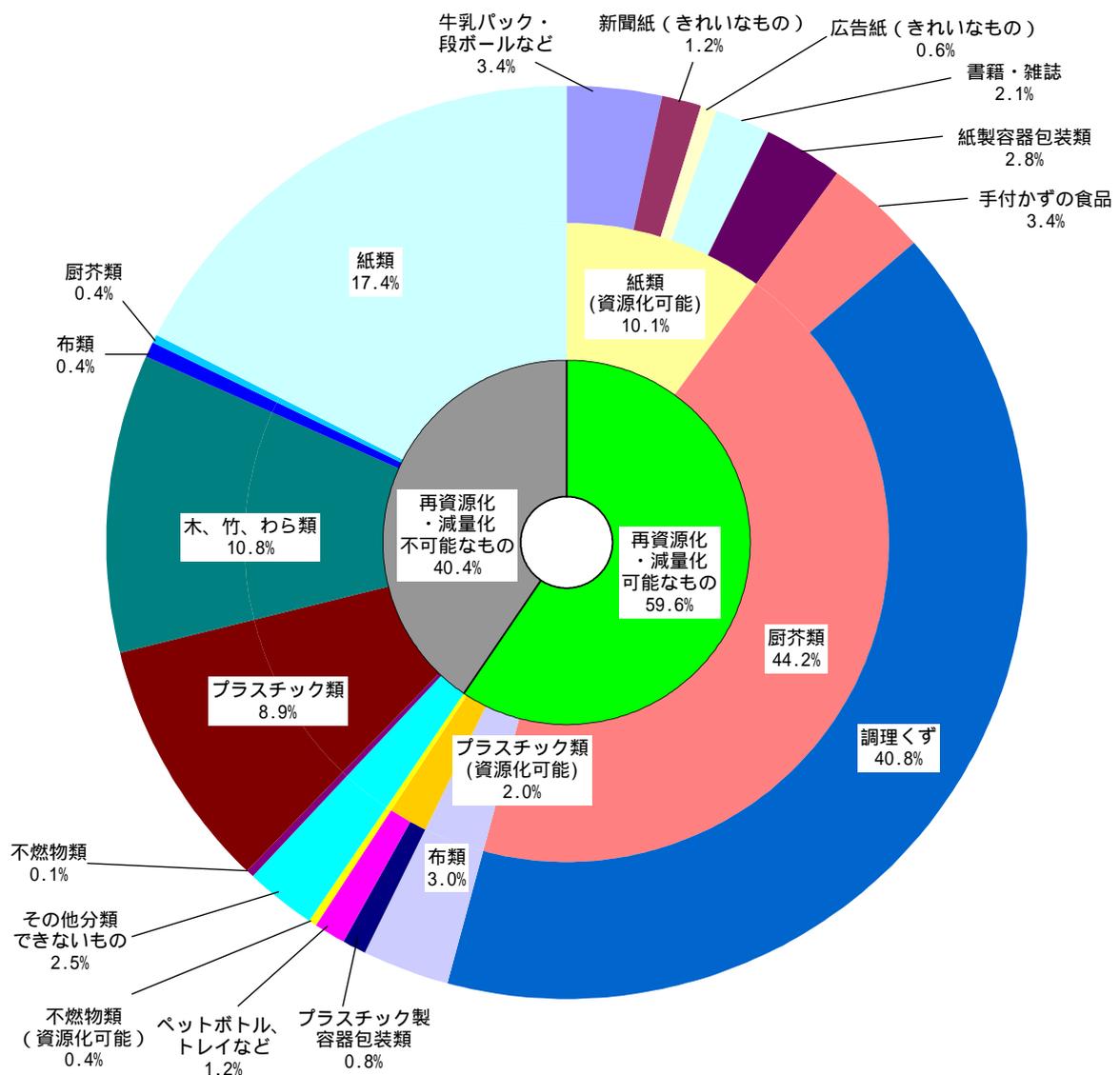


図2-31 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況 (本市全域：重量比)

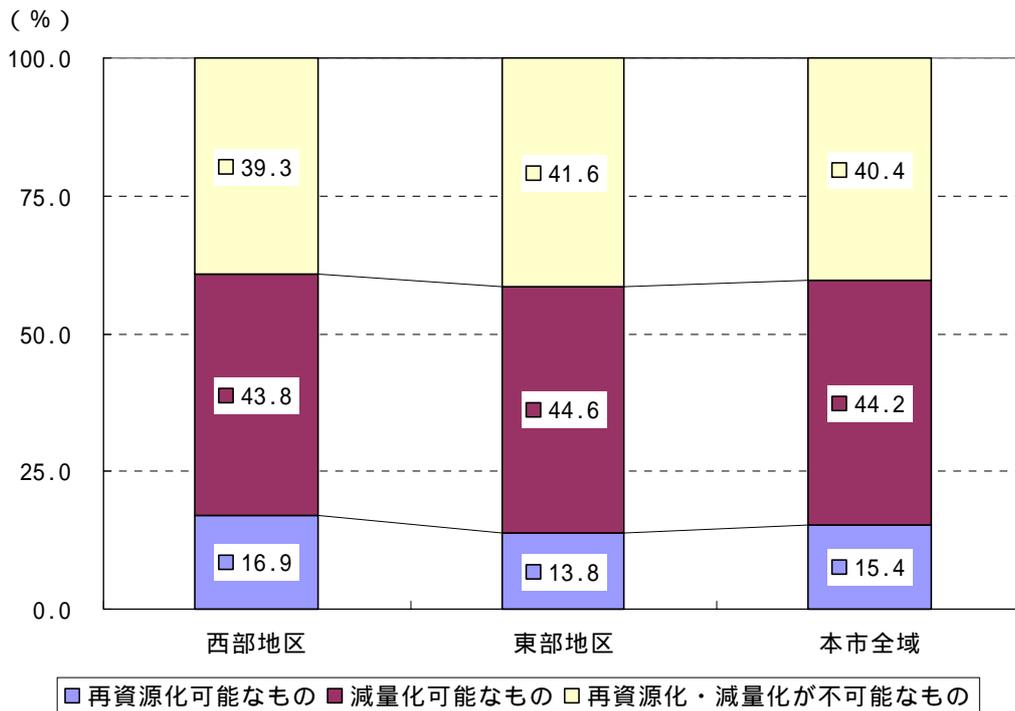


図2-32 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

表2-18 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比：追加確認）

品 目	H20年度調査		備考 (H19年度調査)
	調査結果	構成比	
スチール缶	0.14 %	100.00 %	0.06 %
リサイクル可能	0.14 %	100.00 %	0.06 %
リサイクル不可能	- %	- %	- %
アルミ缶	0.03 %	100.00 %	0.01 %
リサイクル可能	0.03 %	100.00 %	0.01 %
リサイクル不可能	- %	- %	- %
リターナブルびん	- %	- %	- %
リサイクル可能	- %	- %	- %
リサイクル不可能	- %	- %	- %
ワンウェイびん	0.11 %	100.00 %	0.07 %
リサイクル可能	0.11 %	100.00 %	0.07 %
リサイクル不可能	- %	- %	- %
電池等	- %	- %	0.01 %
乾電池	- %	- %	0.01 %
蛍光灯	- %	- %	- %

2 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本市全域、西部地区及び東部地区の不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-19 及び図 2-33、図 2-34 に示した。

本市から排出された不燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類はスチール類、その他金属類、ワンウェイびんで、全体の約 24.4%を占めていた(表 2-19 参照)。一方でプラスチック類のうち再資源化が可能なものは約 0.6%となっており、可燃ごみと同様にマテリアルリサイクルを対象とした再資源化に適さないものが多いことが確認された。なお、平成 21 年 2 月よりごみ袋の有料化を実施することから、本調査で再資源化の可能性が高い品目については、今後の挙動を確認していく必要がある。

次に、本年度に追加確認を行ったリターナブルびんを除いた、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんのリサイクル可否に関する内訳を表 2-20 に整理した。

結果として、昨年の調査結果と比較して、リターナブルびんを除く、スチール缶、アルミ缶、ワンウェイびんについては、構成比が変動していることが確認された。

表2-19 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区 分	西部地区	東部地区	本市全域
不燃ごみ	100.00 %	100.00 %	100.00 %
紙類	0.55 %	0.49 %	0.51 %
再資源化可能なもの	0.55 %	0.49 %	0.51 %
牛乳パック	0.05 %	0.00 %	0.02 %
段ボール	0.00 %	0.00 %	0.00 %
書籍・雑誌	0.00 %	0.00 %	0.00 %
新聞紙（きれいなもの）	0.00 %	0.19 %	0.10 %
広告紙（きれいなもの）	0.00 %	0.00 %	0.00 %
紙製容器類	0.07 %	0.15 %	0.11 %
紙製包装類（きれいなもの）	0.42 %	0.15 %	0.28 %
OA用紙	0.01 %	0.00 %	0.00 %
その他紙類（きれいなもの）	0.00 %	0.00 %	0.00 %
再資源化不可能なもの	0.00 %	0.00 %	0.00 %
厨芥類	0.00 %	0.29 %	0.15 %
減量化可能なもの	0.00 %	0.29 %	0.15 %
手付かずの食品	0.00 %	0.29 %	0.15 %
調理くず	0.00 %	0.00 %	0.00 %
減量化不可能なもの	0.00 %	0.00 %	0.00 %
布類	0.00 %	0.00 %	0.00 %
再資源化可能なもの	0.00 %	0.00 %	0.00 %
再資源化不可能なもの	0.00 %	0.00 %	0.00 %
プラスチック類	19.12 %	6.08 %	12.48 %
再資源化可能なもの	0.65 %	0.65 %	0.64 %
ペットボトル（きれいなもの）	0.33 %	0.45 %	0.39 %
レジ袋（きれいなもの）	0.11 %	0.00 %	0.05 %
白色トレイ	0.00 %	0.00 %	0.00 %
その他トレイ	0.00 %	0.00 %	0.00 %
プラスチック製容器包装類	0.21 %	0.20 %	0.20 %
再資源化不可能なもの	18.47 %	5.43 %	11.84 %
木、竹、わら類	1.06 %	0.11 %	0.58 %
不燃物類	77.76 %	89.77 %	83.88 %
再資源化可能なもの	30.77 %	26.38 %	28.79 %
スチール類（きれいなもの）	4.76 %	6.49 %	5.72 %
アルミ缶（きれいなもの）	1.16 %	1.00 %	1.09 %
その他金属類	6.32 %	7.30 %	6.82 %
リターナブルびん（きれいなもの）	4.12 %	0.54 %	2.31 %
ワンウェイびん（きれいなもの）	13.73 %	9.83 %	11.88 %
乾電池	0.25 %	0.26 %	0.26 %
蛍光灯	0.43 %	0.96 %	0.71 %
再資源化不可能なもの	46.99 %	63.39 %	55.09 %
その他分類できないもの	1.51 %	3.26 %	2.40 %

上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

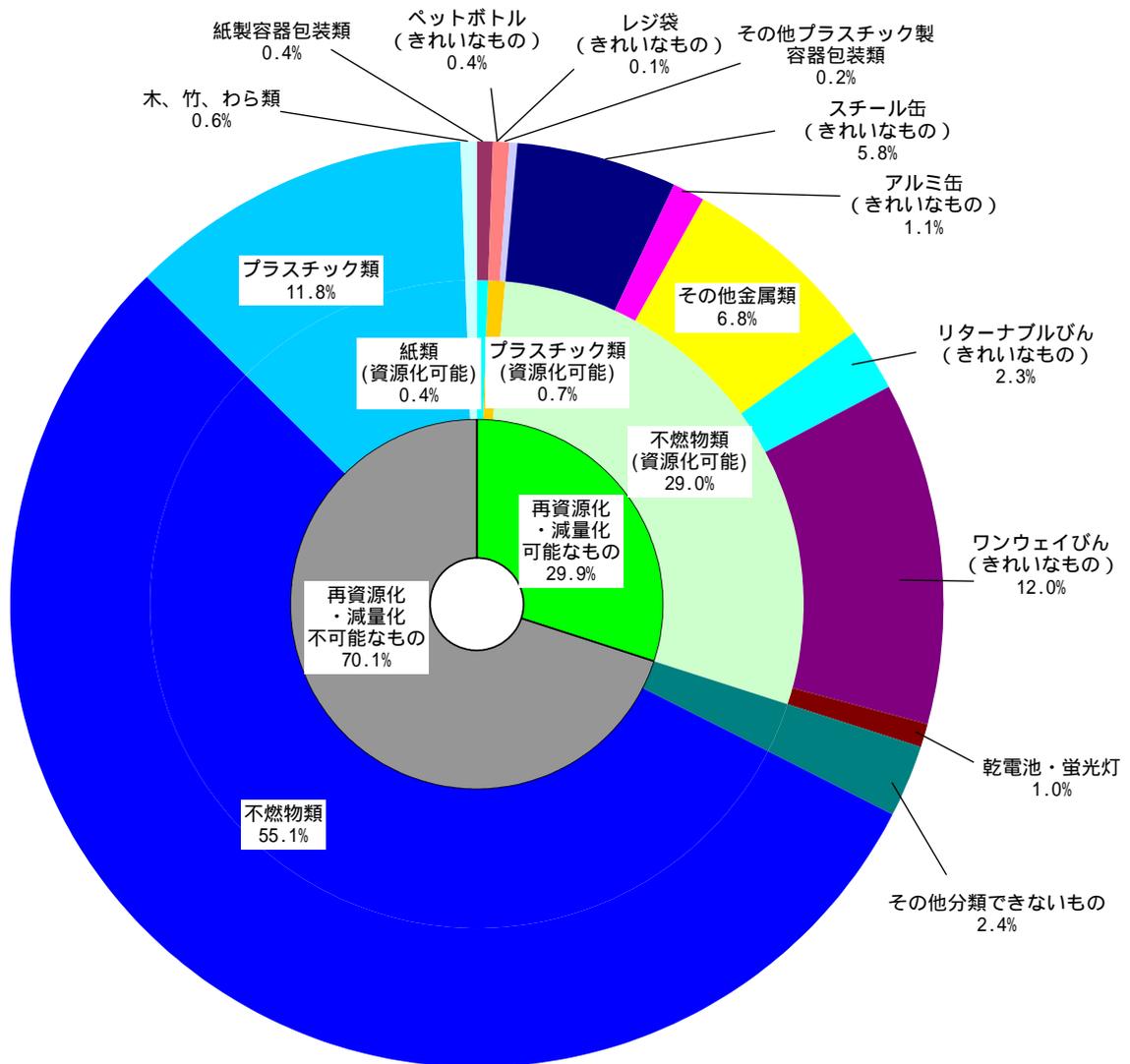


図2-33 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況 (本市全域：重量比)

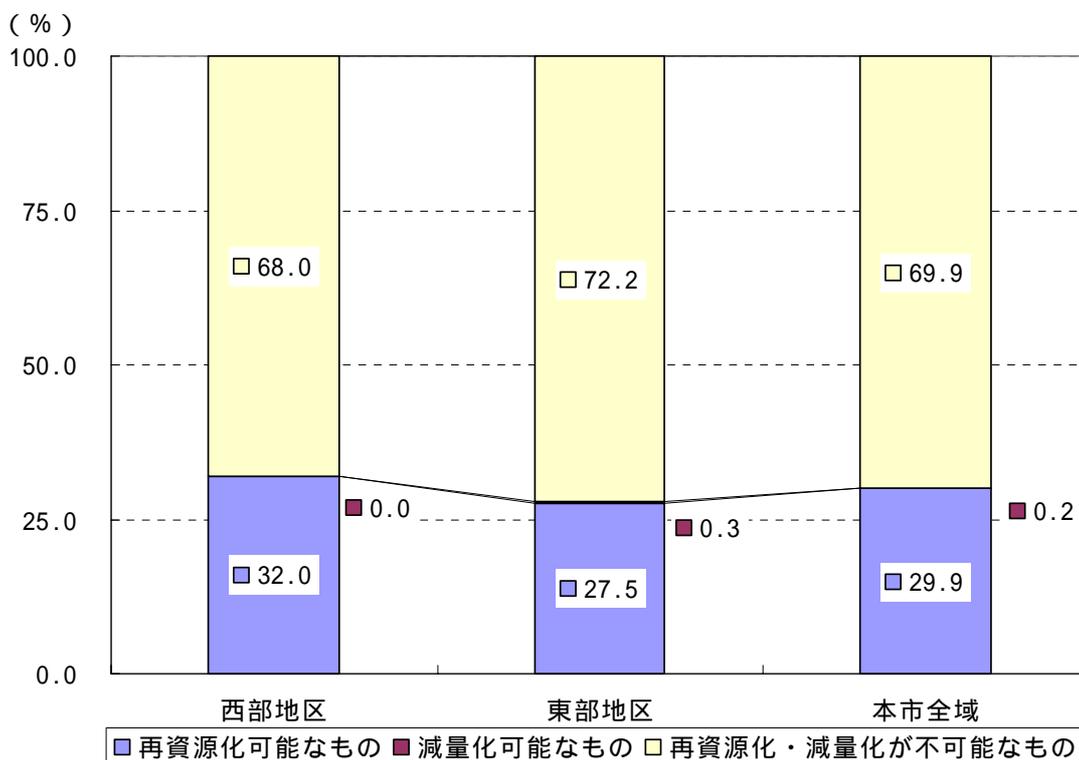


図2-34 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

表2-20 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比：追加確認）

品 目	H20年度調査		備考 (H19年度調査)
	調査結果	構成比	
スチール缶	8.17 %	100.00 %	9.20 %
リサイクル可能	7.93 %	97.06 %	6.56 %
リサイクル不可能	0.24 %	2.94 %	2.64 %
アルミ缶	1.59 %	100.00 %	1.49 %
リサイクル可能	1.09 %	68.55 %	1.48 %
リサイクル不可能	0.50 %	31.45 %	0.01 %
リターナブルびん	2.31 %	100.00 %	1.62 %
リサイクル可能	2.31 %	100.00 %	1.62 %
リサイクル不可能	0.00 %	0.00 %	0.00 %
ワンウェイびん	18.39 %	100.00 %	14.13 %
リサイクル可能	11.88 %	64.60 %	11.75 %
リサイクル不可能	6.51 %	35.40 %	2.38 %

第5節 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握

本節では、45ℓのごみ袋と20ℓのレジ袋を対象としてごみ袋への投入量を確認した。

なお、上記のごみ袋やレジ袋については、前述した組成調査で調査対象外としたものを利用して状況把握を行っている。

1 可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

(1) 可燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地区及び東部地区の可燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-21に示した。

調査結果として45ℓのごみ袋1袋につき西部地区では1.1~5.85kg、東部地区では0.4~6.4kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.81kgが投入されている試算となった。また、20ℓのレジ袋も同様に調査した結果、1袋につき西部地区で0.4~1.7kg、東部地区で0.2~0.7kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約0.72kgが投入されている試算となった。

次に、図2-35に可燃ごみのごみ袋の分布状況を示したが、分布状況としては45ℓのごみ袋では1~3kgが、小袋では1kg未満の分布状況が高くなっていた。

表2-21 可燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋(45ℓ袋)		小袋(20ℓレジ袋)	
	西部地区	東部地区		西部地区
袋の数	15袋	15袋	袋の数	15袋
総重量	46.55kg	37.8kg	総重量	46.55kg
1袋当たりの重量	3.10kg/袋	2.52kg/袋	1袋当たりの重量	3.10kg/袋
備考	【本市全域】 $(46.55\text{kg} + 37.8\text{kg}) \div (15\text{袋} + 15\text{袋})$ 2.81kg/袋		【本市全域】 $(5.3\text{kg} + 1.9\text{kg}) \div (5\text{袋} + 5\text{袋})$ 0.72kg/袋	

上記の総重量は調査検体以外のごみ袋を対象として調査を行ったものである。

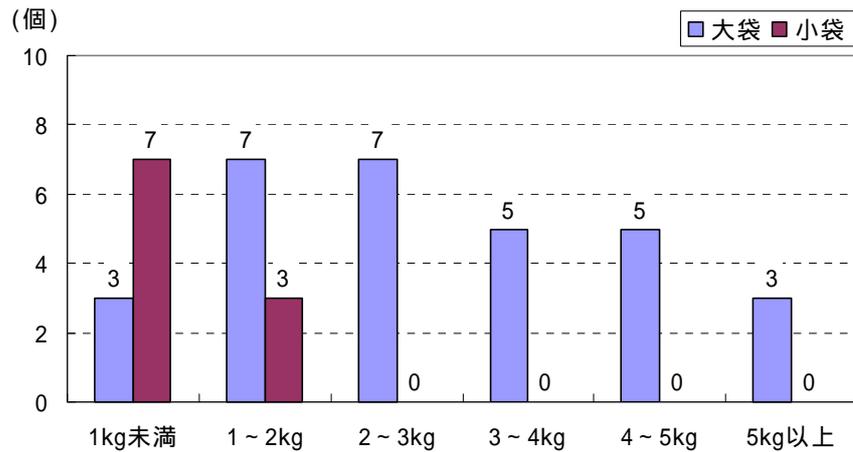


図2-35 可燃ごみ 1袋当たりの投入量の分布状況

(2) 可燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地区及び東部地区の可燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-22に示した。

調査結果として45ℓのごみ袋1袋につき西部地区では20~50ℓ、東部地区では15~40ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約31ℓが投入されている試算となった。また、20ℓのレジ袋も同様に調査した結果、1袋につき西部地区で10~15ℓ、東部地区で5~10ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約10ℓが投入されている試算となった。

次に、図2-35に可燃ごみの投入容量の分布状況を示した。

45ℓのごみ袋の分布としては、20~50ℓの投入範囲で全体の約93%を占めている。投入範囲の主体としては30~40ℓで全体の約40%を占めていた。

小袋については、全て20ℓ未満の投入量であった。

表2-22 可燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋(45ℓ袋)		小袋(20ℓレジ袋)	
	西部地区	東部地区	西部地区	東部地区
袋の数	15袋	15袋	5袋	5袋
総容量	510ℓ	410ℓ	65ℓ	35ℓ
1袋当たりの容量	34.0ℓ/袋	27.3ℓ/袋	13.0ℓ/袋	7.0ℓ/袋
備考	【本市全域】 (510ℓ + 410ℓ) ÷ (15袋 + 15袋) 30.7ℓ/袋		【本市全域】 (65ℓ + 35ℓ) ÷ (5袋 + 5袋) 10.0ℓ/袋	

上記の総容量は調査検体以外のごみ袋を対象として調査を行ったものである。

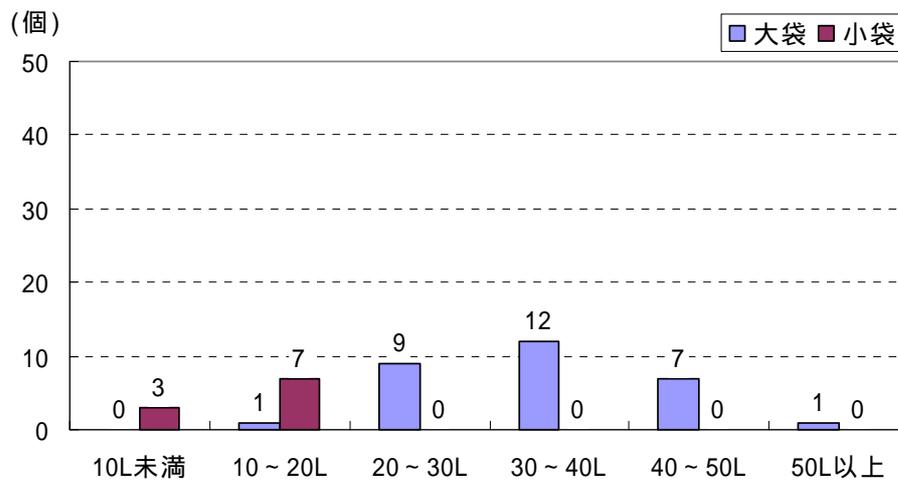


図2-36 可燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

2 不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

(1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地区及び東部地区の不燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-23に示した。

調査結果として45ℓのごみ袋1袋につき西部地区では2.8~7.5kg、東部地区では2.75~4.5kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.7kgが投入されている試算となった。また、20ℓのレジ袋も同様に調査した結果、1袋につき西部地区で0.2~4.1kg、東部地区で0.4~2.5kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.49kgが投入されている試算となった。

次に、図2-37に不燃ごみのごみ袋の分布状況を示したが、45ℓのごみ袋では1袋当たり5kg以上が、小袋では2kg未満の分布状況が高くなっていった。

表2-23 不燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋(45ℓ袋)		小袋(20ℓレジ袋)	
	西部地区	東部地区	西部地区	東部地区
袋の数	5袋	5袋	10袋	10袋
総重量	28.1kg	18.87kg	14.0kg	15.8kg
1袋当たりの重量	5.62kg/袋	3.77kg/袋	1.40kg/袋	1.58kg/袋
備考	【本市全域】 $(28.1\text{kg} + 18.87\text{kg}) \div (5\text{袋} + 5\text{袋})$ 4.70kg/袋		【本市全域】 $(14.0\text{kg} + 15.8\text{kg}) \div (10\text{袋} + 10\text{袋})$ 1.49kg/袋	

上記の総重量は調査検体以外のごみ袋を対象として調査を行ったものである。

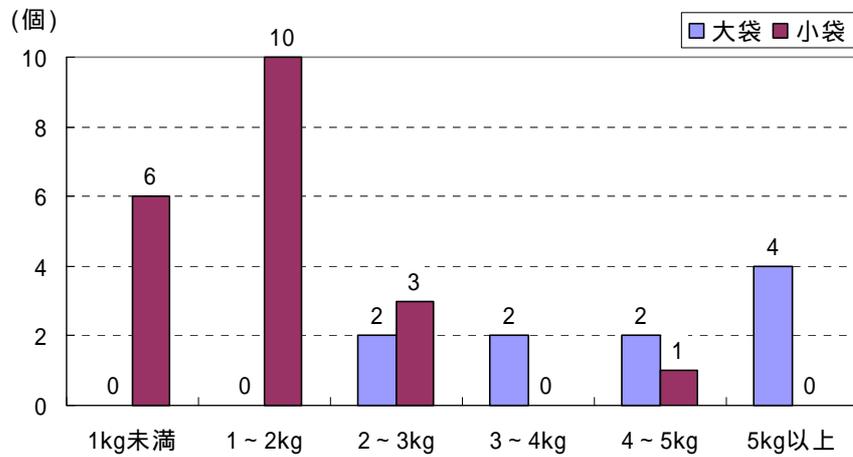


図2-37 不燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

(2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地区及び東部地区の不燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-24に示した。

調査結果として45ℓ相当のごみ袋1袋につき西部地区では35～50ℓ、東部地区では20～50ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約37.0ℓが投入されている試算となった。小袋では1袋につき西部地区では5～15ℓの範囲で、東部地区では3～10ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.9ℓが投入されている試算となった。

45ℓのごみ袋の分布としては、40～50ℓの投入範囲が最も多く、全体の約40%を占めている。小袋については、全て20ℓ未満の投入量であった。

表2-24 不燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋(45ℓ袋)		小袋(20ℓレジ袋)	
	西部地区	東部地区	西部地区	東部地区
袋の数	5袋	5袋	10袋	10袋
総容量	200ℓ	170ℓ	70ℓ	68ℓ
1袋当たりの容量	40.0ℓ/袋	34.0ℓ/袋	7.0ℓ/袋	6.8ℓ/袋
備考	【本市全域】 (200ℓ+170ℓ)÷ (5袋+5袋) 37.0ℓ/袋		【本市全域】 (70ℓ+68ℓ)÷ (10袋+10袋) 6.9ℓ/袋	

上記の総容量は調査検体以外のごみ袋を対象として調査を行ったものである。

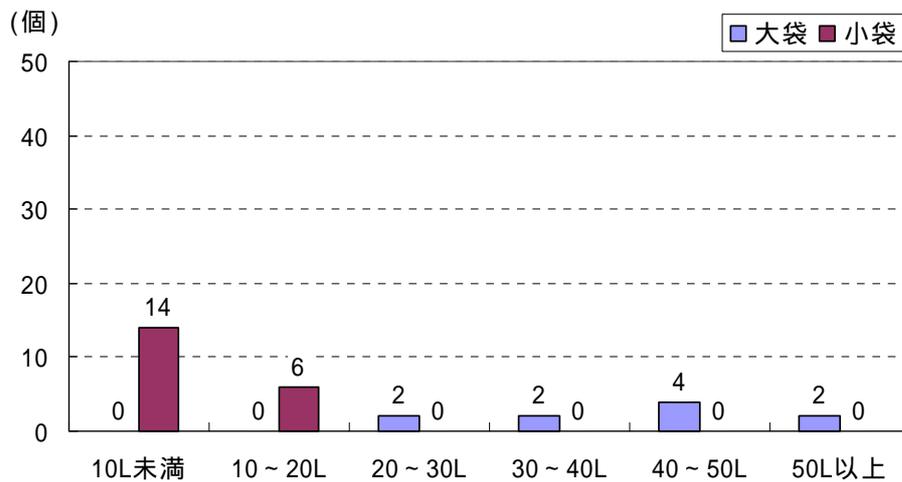


図2-38 不燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

家庭ごみ組成分析調査結果の総括

第3章 家庭ごみ組成分析調査結果の総括

今回実施した調査分析結果の総括を以下に整理した。

1 地域的なごみの排出特性の把握

地域的なごみの排出特性としては、平成 18 年度に実施した調査地域とほぼ同様の地区であったことから、この結果と類似するものとなった。

可燃ごみについては、厨芥類の構成比が高くなっている点や、プラスチック、ゴム、皮革類の構成比が少なくなっている点が特徴であった。また、不燃物類の構成比が平成 19 年度よりほぼ同レベルであったから啓発効果が表れているものと考えられる。

不燃ごみについては、ペットボトルの構成比が増加、トレイの混入が無かった点、ワンウェイびんや複合素材の構成比が高くなっていることが特徴であった。また、西部地区では「プラスチック、ゴム、皮革類」の構成比が高く、東部地区では「不燃物類」の構成比が高いという地域的な排出形態の差が顕著に現れていた。

2 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

(1) 適正分別の状況

本市における分別状況は、可燃ごみでは適正分別分の構成比が昨年と比較して大幅に増加しており、適正分別が浸透してきているものと推察される。

可燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約 9.1%、不燃ごみが約 0.2%となっていた（表 3-1、図 3-1 参照）。

不燃ごみでは、可燃ごみの混入割合が昨年度の調査結果と同様であったのに対し、資源化物の混入割合がやや増加していたことに起因して、適正分別の構成比が低下していた。

不燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約 31.9%、可燃ごみが約 12.2%となっていた（表 3-2、図 3-2 参照）。

(2) 資源化物の混入状況（可燃ごみ）

本年度の調査結果において、可燃ごみに混入していた資源化物の構成比が昨年度より減少した主な品目としては、ダンボール（1.39% 0.97%）、書籍・雑誌類（4.42% 2.10%）、広告紙（2.55% 0.56%）、布類（3.36% 2.97%）などの主に紙類の混入割合が減少していることが要因となっており、こうした資源となるものを適正に分別する意識が浸透してきたものと考えられる。

表3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

項目	本市全域
混入していた資源化物	9.06 %
牛乳パック（500ml以上）	0.52 %
ダンボール	0.97 %
書類・雑誌類	2.10 %
新聞紙	1.22 %
広告紙	0.56 %
布類（リサイクル可能物）	2.97 %
ペットボトル（リサイクル可能物）	0.36 %
白色トレイ	0.07 %
スチール缶	0.14 %
アルミ缶	0.03 %
リターナルびん	0.00 %
ワンウェイびん	0.12 %
乾電池	0.00 %
混入していた不燃ごみ	0.19 %
その他金属類	0.09 %
その他ガラス類	0.00 %
陶磁器類	0.00 %
複合素材	0.10 %
医療系	0.00 %
適正な分別（可燃ごみ）	90.75 %
手付かずの食品	3.43 %
調理くず等	40.75 %
その他可燃ごみ	46.57 %
合計	100.00 %

上表のデータは表2-1に示したデータを採用している。

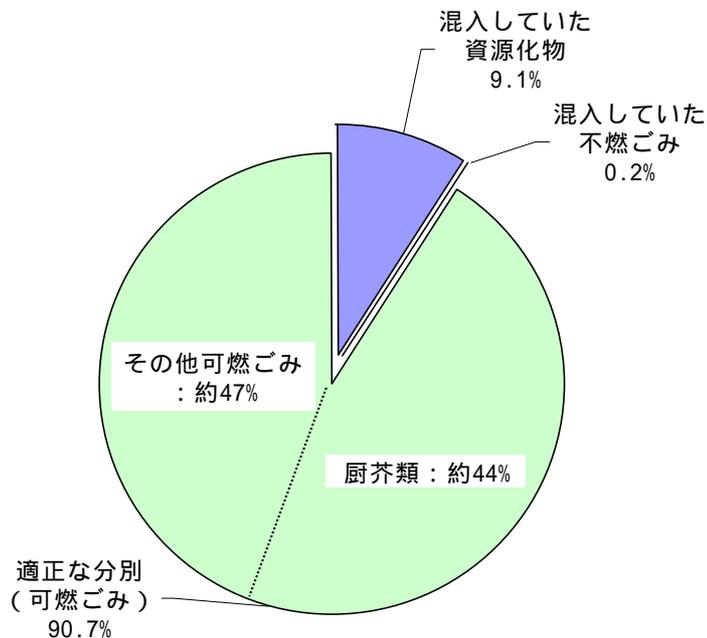


図3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

表3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

項目	本市全域
混入していた資源化物	31.94 %
牛乳パック（500ml以上）	0.02 %
ダンボール	0.00 %
書類・雑誌類	0.00 %
新聞紙	0.10 %
広告紙	0.00 %
布類（リサイクル可能物）	0.00 %
ペットボトル（リサイクル可能物）	0.39 %
白色トレイ	0.00 %
スチール缶	8.17 %
アルミ缶	1.59 %
リターナルびん	2.31 %
ワンウェイびん	18.39 %
乾電池等	0.97 %
混入していた可燃ごみ	12.19 %
適正な分別（不燃ごみ）	55.87 %
包装類（ごみ出し用）	0.00 %
新聞紙（水分含む）	0.00 %
広告紙（水分含む）	0.00 %
ごみ袋（透明・半透明袋）	0.37 %
ごみ袋（その他の色袋）	0.00 %
ごみ袋（レジ袋）	0.65 %
その他金属類	6.82 %
その他ガラス類	7.10 %
陶磁器類	17.29 %
複合素材	21.24 %
医療系	0.00 %
選別不能残渣	2.40 %
合計	100.00 %

上表のデータは表 2-7 に示したデータを採用している。

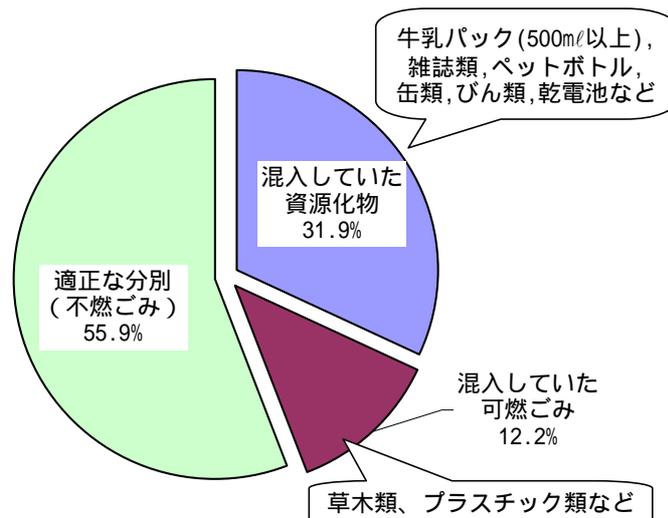


図3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

3 容器包装廃棄物の混入状況の把握

可燃ごみ及び不燃ごみに占める容器包装廃棄物の混入状況は、可燃ごみでは構成比が低くなっている状況が確認された。一方で不燃ごみでは構成比が高くなっている状況が確認された。

可燃ごみについては牛乳パック、ダンボール、ペットボトル、不燃ごみについてはスチール缶、アルミ缶、リターナルびん、ワンウェイびんなど比較的容易に分別可能な品目の構成比が高いことから今後も啓発を実施していく必要がある。

4 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

可燃ごみ及び不燃ごみに占める再資源化、減量化の可能性に関する状況としては、本市全域でみると、可燃ごみで約 59.6% (H19 : 56.8%)、不燃ごみで約 30.1 (H19 : 34.7%) という状況であった。

可燃ごみのうち再資源可能な項目としては紙類の構成比が高いため、今後実施するざつかみ回収などの施策により本品目の構成比は低くなるものと想定される。なお、厨芥類については過去の調査結果同様に構成割合が高く、水切りや食べ残しを少なくするなどの啓発を継続して行っていく必要があると考えられた。

不燃ごみでは、スチール類、その他金属類、ワンウェイびんなどの品目の構成比が高くなっており、適正分別に向けた啓発を行っていく必要がある。

5 ごみ袋 1 袋当たりの投入量等に関する状況把握

ごみ袋 1 袋当たりに投入するごみ量としては、可燃ごみでは 45ℓのごみ袋が 2.81kg/袋、20ℓのレジ袋が 0.72kg/袋、不燃ごみでは 45ℓのごみ袋が 4.70kg/袋、20ℓのレジ袋が 1.49kg/袋という状況であった。

ごみ袋 1 袋当たりに投入するごみの容量としては、可燃ごみでは 45ℓのごみ袋が 30.7ℓ/袋、20ℓのレジ袋が 10.0ℓ/袋、不燃ごみでは 45ℓのごみ袋が 37.0ℓ/袋、20ℓのレジ袋が 6.90ℓ/袋という状況であった。

6 今後の課題

本年度の調査結果については、平成 20 年 12 月よりざつかみの分別を開始することや、古紙類などの回収頻度を増加すること、平成 21 年 2 月より可燃ごみ及び不燃ごみのごみ袋を有料化するなどの施策を新たに実施することから、来年度以降の組成内容の構成比の挙動が推測できないため、来年度の調査時において本年度との比較検討を実施する必要がある。

《ごみ組成分析調査の流れ1》

	状況写真	概要
収集段階		<p>各ステーションから調査サンプルを収集する。</p>
調査場所へ搬入		<p>調査実施場所へ搬入したサンプルを大小に分けて並べ、奇数番号のごみ袋を取り出し、調査検体とする。</p>
計量段階		<p>調査検体として抽出したごみ袋を全て計量する。</p>

《ごみ組成分析調査の流れ2》

	状況写真	概要
分別作業段階		<p>計量後の調査検体を表 1-2 に示した品目に分別する。</p>
分別後の段階		<p>全ての調査検体を分別するまでの間、分別した品目を一箇所に集める。 分別が完了した後に、分別後の状況の写真撮影を行った。</p>
計量段階		<p>全ての分別が完了した後、計量を行う。 計量は、分別を行った全ての品目に対して実施している。</p>
<p>以上の作業を、西部地域及び東部地域の可燃ごみ、不燃ごみに対して実施した。</p>		